男子世界選手権大会

代表メンバー

団　長　　渡辺佳央（日本実連会長）
監　督　　津川　昭（湧永製薬）
コーチ　　蒲生晴明（大同特殊鋼）
コーチ　　喜井美雄（本田技研鈴鹿）
ドクター　米沢元美（浜脇病院）

ＦＰ ② 田口　隆
本田技研鈴鹿
1961.7.23　184㎝　78kg

ＧＫ ⑯ 秋吉哲男
大同特殊鋼
1965.7.27　190㎝　86kg

ＧＫ ⑫ 橋本行弘
本田技研鈴鹿
1965.9.17　185㎝　80kg

ＧＫ ① 矢内　浩
大崎電気工業
1960.8.1　189㎝　85kg

ＦＰ ⑥ 酒巻清治
湧永製薬
1962.5.7　180㎝　74kg

ＦＰ ⑤ 荷川取義浩
湧永製薬
1961.12.4　185㎝　93kg

ＦＰ ④ 宮下和広
大崎電気工業
1961.8.6　187㎝　87kg

ＦＰ ③ 玉村健次
湧永製薬
1961.1.16　182㎝　77kg

ＦＰ ⑩ 首藤信一
大崎電気工業
1965.1.10　186㎝　84kg

ＦＰ ⑨ 山村敏之
本田技研鈴鹿
1964.7.9　177㎝　73kg

ＦＰ ⑧ 甲斐章義
大崎電気工業
1966.4.22　183㎝　73kg

ＦＰ ⑦ 河原隆雅
湧永製薬
1964.1.3　180㎝　76kg

ＦＰ ⑮ 中山　剛
福岡大学
1969.7.4　191㎝　75kg

ＦＰ ⑭ 武田大伸
日新製鋼
1964.3.24　182㎝　76kg

ＦＰ ⑬ 魚住和彦
大崎電気工業
1966.10.24　188㎝　75kg

ＦＰ ⑪ 斉藤慎太郎
山形教員
1965.8.3　188㎝　78kg

全日本男子ヨーロッパ遠征報告

強豪の胸を借りてレベルアップへ

昨年11月21日から12月4日までの14日間、男子ナショナルチームはヨーロッパ（デンマーク、オランダ）へ遠征、オランダカップに参加したが、残念ながら強豪チーム相手に善戦をみせたものの5戦全敗で参加6ヵ国中最下位の結果となった。

以下、その遠征報告から一部をご紹介する。

オランダカップでの試合結果

オランダ25（14－12、11－6）18日本

〔戦評〕前半の立ち上がりより攻撃のミスが目立ち、5点差をつけられる。後半に入り、一時3点差まで追い上げるが、退場者が出て7点差で終了。

オランダは平均身長が192～193cmで、体格的には大きいが技術的には低い。ただし、ホスト国でもあり、応援とムードにより力を発揮した。

東ドイツ29（15－12、14－11）23日本

〔戦評〕外人に対し慣れも出てきて動きも良くなり、前半の終盤まで接戦になるが、攻撃のイージーミスで3点差で折り返す。後半になり追い上げるが、相手GKの好守もあり、6点差で終了した。

この試合で中山（190cm、左フローター）が当り、7得点をあげた。東ドイツはボルシャト（198cm、左フローター）と両サイドは技術的にも高く、得点能力もあるが、長年ポイントゲッターとして中心であったバール（左フローター）が控えに回ることが多く次期エースをテスト中であった。勝てないことはないと感じた。

ポーランド21（14－9、7－11）20日本

〔戦評〕GKの好守と動きの出てきた攻撃で前半を4点リードして折り返す。後半立ち上がり連続得点を許し、一時3点リードされるが盛り返し、接戦となり、1点をリードされノータイムPTを得るがGKにとられ終了する。勝つチャンスはあったが、後半立ち上がりの連続失点が大きかった。

ポーランドはあまり特徴のないチームであったが、フローターのリビジンスキーからの展開が多く、この選手をマークすれば攻撃は止められると感じた。

ノルウェー24（11－10、13－13）23日本

〔戦評〕試合を通して接戦であり、ミスも少ないゲームであった。残り1分で勝ち越しシュートをはずし、直後のフリースローを決められ1点差で敗れる。後半連続4点をハバングに決められたことがこの試合のポイントであった。

直線的な攻撃が多く、動き出す前に厳しく当たれば止められるが、受けてしまうと押し込まれる。選手では両サイドの技術は高い。また、ハバング（右フローター）のしなやかなシュートはタイミング、切れとも非常によくマークする選手である。

ハンガリー24（11－10、13－12）22日本

〔戦評〕前半開始から8点、ノーミスでいい立ち上がりをみせ3点をリードするが、細かなミスが続き1点差で折り返す。後半に入っても一進一退のゲームになるが、残り3分で連続得点を許し、2点差で終了した。

速攻のつなぎの速さと組織的な攻撃が特徴であるが、ソウルの中心選手のギルカ（200cm、右フローター）とマロシ（左フローター）がいなくなり、新しいチームづくりをしているところである。

現地でのトレーニング、コンディショニング

デンマークは時差ボケと移動による疲れからか集中力に欠けたが、オランダカップ第2戦ぐらいから夜のゲームと生活のリズムにも慣れ、本来の動き、力が発揮できるようになった。

現地の気候は、デンマーク、オランダともにマイナス5度から0度Cで、湿度は低く、そんなに寒くは感じられなかった。室内は完全暖房であり、プレーには影響なかった。

状況分析

外人の高さ、力、プレーに慣れることと世界選手権で同じグループの東ドイツ、ポーランドとのゲームより手応えを感じた。むろん両国とも本大会までには新しい力、隠された力はあるとは思うが、対外人対策は通用するプレーとそうでないプレーを整理し、トレーニ

全日本男子ヨーロッパ遠征メンバー

役職	氏名
団長	植村　繁
監督	津川　昭
コーチ	蒲生　晴明
コーチ	喜井　美雄
ドクター	山地　善紀
選手①	矢内　弘
②	田口　隆
③	玉村　健次
④	宮下　和弘
⑤	荷川取　義弘
⑥	酒巻　清治
⑦	河原　隆雅
⑧	甲斐　章義
⑨	山村　敏之
⑩	首藤　信一
⑪	斎藤　慎太郎
⑫	橋本　行弘
⑬	木村　信弥
⑭	武田　大伸
⑮	中山　剛
⑯	秋吉　哲男

ングすれば期待できる。

成果

ソウルメンバー以外の新しい力として斉藤（攻撃ポスト、守りセンター）がほとんどフル出場したことと中山（左フローター）のロングシュートが通用することがわかった。

また、接戦の中、プレッシャーのかかった状態でプレーし、負けはしたが1点差をめぐるプレーができたこと。

反省

ソウルメンバー以外の力として2、3人出てきたが、まだ主力はソウルメンバーであり、年齢的にも高くなってきており、早く次期メンバーのレベルアップが必要であり、ためしたかったが、イージーミスと攻撃の弱さから実施するチャンスが少なかった。

今後の課題

。選手層の薄さ、特に中央4人の守りと両サイドのスペシャリストの強化。

。精神的スタミナの強化、特に国内ではプレッシャーのかかった状態でプレーすることが困難であり、海外遠征の頻度をあげること。

。ボールに対する執念の強化、国際ゲームではルーズボールの確保をしないとゲームには勝てない。

。マイボールからのテンポの速い攻撃の展開と確率のアップ。

選手たちの感想文から

酒巻清治

バルセロナ・オリンピックを目指す全日本チームにとって、初めての欧州遠征となった今回、まず最初の2戦は5月の佐川急便杯で来日したデンマークナショナルチームとの対戦となりました。

前回対戦したとき、これは「組みしやすし」という印象を受けたため、いざゲームになってみると、全日本の調整不足もあって、2試合とも一方的な展開になってしまいました。

デンマークはベテラン・ラスミューゼン選手を中心に、速攻もうまく、バランスのとれた迫力あるチームに仕上がっていました。

予想以上にデンマークにたたかれ、あまり元気の出ない全日本チームは、オランダチームにも2戦2敗してしまいました。オランダはかなり大型でポストプレーもうまく、東独やハンガリーもかなり苦戦してしまいました。

ここまでの全日本チームは調子は上らず、このままオランダカップを終了してしまうと来年の世界選手権にも影響が出てしまうのではないかと不安になってきました。

しかし2戦目の東独戦からは、ミーティングの内容を選手同士何度も確認し合い、ゲームで実行、成功させることによってチームの調子も上向き、ポーランド、ノルウェー、ハンガリーの3試合は、1、2点を争う展開になり選手個々にも自信が出て来たように思われました。

前述しましたように、遠征の最初の頃を思うと、非常に残念でなりません。もっとレベルの高い位置からスタートしていれば、オランダカップではもっと良い成績を上げられたのではないかと反省しています。ちなみに、オランダカップの順位は、1位東独、2位ノルウェー、3位ハンガリー、4位オランダ、5位ポーランド、6位日本　以上です。

そして日本チームの弱点や課題が数多く見つけられた遠征であり、私自身の反省としては、ヨーロッパチーム（大型）の0・6DFに対しての攻撃方法の手薄さ、ロングシューターが苦しくなった時のサイド・ポストのコンビプレーでの得点力の低さ、速攻時のつなぎの悪さ、DF面では、1・2・3DFをする場合のサイドDFの重要性（アジアでは守れるものも、ヨーロッパ相手ではフォロー・カットのタイミングがまるで違ってくる）など、これ以上にもまだあるとは思いますが、来年の世界選手権までには、これらのことをなんとか克服し、特に今回対戦した東独、ポーランドには必ず借りを返し、ぜひとも6位入賞を目指したいと思います。

木村信弥

オランダカップの成績は、6位とあまりよい成績ではなかったが、個人としてはいろいろ勉強になった遠征であった。試合には1試合しか出れなかったが、デンマークナショナルチームやクラブチームとの親善試合では、多くの時間試合に出ることができた。

外人を相手とする場合、パワーが違いすぎることは明確であり、それをどう克服するかが最大の課題であった。今回ディフェンスではアタックディフェンスをやっていたが、ソウルメンバーよりもディフェンスがもろく、まだまだ力不足だと感じた。最後の試合が終了した後のミーティングでも監督から選手の層が薄いと言われ、ソウルメンバー以外の選手がもっと力をつけなければならないと痛感した。

今後はより一層練習に励み、少しでも早くレベルアップをし、誰が試合に出ても変らないようにし

ていきたいと思う。

斉藤慎太郎

今回の遠征は、2月からの世界選手権のための力試し、ヨーロッパ勢に対していかに戦っていくかということを第一目標において、デンマークに向かった。日程的にも9試合とかなりハードなスケジュールではあったが、我々は武者修行に来ているのだという気持ちを持って試合に臨んだ。

さすがにヨーロッパの選手相手だと、あの巨体の重さ分ディフェンス、オフェンスともに体力の消耗も激しく、日本人相手のときのゲームに比べたら格段の差があった。

デンマークに着いた最初のゲームは、とても良い体調とはいえない状態だったが、それをいいわけにはできないが40%ぐらいしか出し切れなかった。攻撃での消極的なプレーが目立ち、得点につながるケースが目立ってきた。自分自身もディフェンスでの退場の多さが問題になっているが、今回も最初の方のゲームでは、必要以外のところで退場になるケースが多く、チームの足を引っぱる形になったが、何試合か重ねていくうちに少しはディフェンスでの退場を受けないポイントがわかった。足がついていってないときは、相手を守っているときもどうしても汚ないプレーに見えるし、うまく動いているときは少しぐらい強い当たりをしても注意されないというところなどである。逆にオフェンスはもっともっと積極的なプレーが足りないと思う。

ヨーロッパ勢を相手に安全策をとっていても通用しないのはわかったので、もっと体を張ったプレーを心がけるようにしたい。

試合経験も増えてきてだいぶ試合に慣れてきた感じがするので、もっと確実にミスの少ないプレーをするように心がけて世界選手権で良い結果を出せるように頑張りたい。

首藤信一

今回の遠征を終えて感じたことは、精神的、肉体的にベストの状態でない時にいかに切り替えを早くし、チームに対しての自分の役割ができるかが大切であると感じました。

私も中堅としてチームのことを考えていかなければならない物を自分のことだけが精一杯という感じで、いい意味での余裕がなく、これから世界選手権に向けては、自分のことだけでなくチームの状態を良くするようにチームのために何が自分にできるのか、また、合宿や遠征での生活をスムーズにできるように考えてゆきたいと思っています。

プレイ面では、今回一番失敗が多くあった速攻でのボールつなぎを再確認し、守りから攻めの切り替えの速さ、正確なパスと位置どりをチームに帰っても練習してゆきたいと考えています。

これからは、前より粘り強くなったチームに対し自信を持ち、大会へ向けて一歩一歩進んで行きたいと思います。

女子世界B選手権大会報告
日本は11位に

女子の世界B選手権大会が、12月1日から10日までデンマークで開催され、日本チームをはじめ16カ国が参加しました。日本は2勝5敗で11位という結果でした。以下に遠征報告を紹介します。

戦績

ルーマニア33 〔15-9 / 18-10〕 19日本

〔戦評〕日本のミス（シュートミスも含む）を速攻につなげられ、ロング・ポストとディフェンスをかきまわされて完敗。明日の試合に目標を置いているため、フォーメーション、コンビプレーなどを出さなかった面が影響した。

ブルガリア20 〔12-8 / 8-11〕 19日本

〔戦評〕今日の試合を目標に行ったが、前半ミスが多く、ロングが決まらなかったこともあり、4点のリードを許す。後半、上村のカットインなどで追いつき、15分過ぎには丸田のロングで1点リードをしたが、日本が退場者を出し逆転され逃げ切られてしまった。

日本27 〔12-6 / 15-6〕 12ポルトガル

〔戦評〕アメリカ大陸第二代表の替1ということでポルトガルが出場して来たが、実力的に劣り、大差のゲームとなった。

西ドイツ22 〔10-2 / 12-9〕 11日本

〔戦評〕西ドイツはルーマニアなどから帰化した選手が中心になりチームを構成していたが、試合運びの上手さが目立った。試合内容は日本が前半3本のPTをはずすなどして20分間ノーゴール。前半2—10とされ、後半追い上げるが、要所でレオンテのロングで引き離された。

チェコ26 〔12-11 / 14-8〕 19日本

〔戦評〕前半、ロング、速攻でリードするが、残り7分間ノーゴールの間に逆転され、11—12で終る。後半5分過ぎ、日本に退場者が出たスキに連続得点され、引き離された。

ポーランド19 〔10-8 / 9-8〕 16日本

女子世界B選手権大会 全日本メンバー

役職	氏名
団長	井　薫
監督	緒方　嗣雄
コーチ	水上　一
コーチ	梶岡　俊介
選手①	小深田由紀子
⑫	小口　明子
⑯	村山みどり
②	尾苗　裕美
③	梅原　直美
④	丸田　紀子
⑤	松沢　祐子
⑥	佐藤　泰子
⑦	道上　圭子
⑧	上村多恵子
⑨	袰川亜由美
⑩	小池美由紀
⑪	市来　未央
⑬	林　智恵
⑭	松田　史佳
⑮	比嘉　晴美

〔戦評〕前半、お互いミスが続く間に相手が連続得点をあげるパターンで終る。後半、20分には日本が追いつき逆転するが、残り10分に1得点に終わり、再逆転された。

日　本 27〔14－15／13－11〕26 オランダ

〔戦評〕前半から速攻の出た日本がリズムに乗り、得点が止まらなかった。後半一時逆転されたが、日本もすぐに取り返し、リードしたまま逃げ切った。

現地でのトレーニング、コンディショニング

ユーゴでのトレーニングマッチで時差も解消し、また自分たちの通用するプレーの確認ができた。デンマークでのトレーニングは午前中1時間近くの体育館で練習が割り当てられており、天気も良く、散歩、ランニングなどもホテルの近くでできたため問題はなかった。多くのケガ人も出たが、高橋ドクターの応急処置によりゲームに支障なかった。選手の精神面も含め、今後もドクターの必要性を感じた。

状況分析

丸田、襞川というロングがいるため、攻撃面である程度の得点がとれるが、サイド、ポストのスペシャリストが必要である。

現在のメンバーであと1～2年の経験を積めば世界Bでベスト8に入る力はある。

成果

GK村山の好調さもあり、DF面では前にツメてフリースローで止める。抜かれてもフォローするというDF面での成果があった。

反省

攻撃でポストとサイドの頑張りがもう少し必要。一人が同じポジションで攻撃するのではなく、ポジションを変え、バラエティーに富んだ攻撃にしなければすぐ相手に対応されてしまう。

今後の課題

日本選手の引退年齢が若くなっている現在、高卒5～7年で引退すると仮定すれば、長期計画でジュニアのメンバーから引き続いて全日本チームという考えで、補強する選手を若干名変えるだけのチームづくりが必要ではないか。

選手たちの感想文から

市来未央

12月2日はブルガリアとの試合でした。試合の結果は20対19の1点差で負けてしまいました。

この試合はとても大切で、みんな気合が入りいいムードで臨むことができました。

相手の攻撃は、日本ではあまりないランニングシュートを打たれたり、ポストにボールが入ると必ずシュートまでいかれ、それに対しての守りができませんでした。私たちの攻撃は、ほとんどつぶされていて、メンバーチェンジで私が入ったときはロングシュートだけでなくもっと違った攻撃で展開できればと思いました。結果としては、あまり思うようにはいかなかったのですが、速攻のチャンスがあって得点することができたということは良かったと思います。

試合を終えてみて、何度か勝てるチャンスがあったのですが、ここというときに自分たちのミスで自滅してしまい、逆に相手を調子づかせてしまったと思います。

比嘉晴美

ユーゴスラビアでの合宿第2日目は、食品会社の実業団チームと対戦した。

今日の相手は、ユーゴの中でも強いチームだと聞いていたため、勝つということより、自分たちが今まで合わせてきたことがどこまで通用するかということを目的に試合に臨みました。

試合の内容は、ヨーロッパのチームは、ロングというイメージがあり、それに対してのDFはうまくつぶせたと思いますが、他のカットインや大きなクロスプレー、ポストなどに得点されてしまいました。

私たちの攻撃では、今まで合わせてきたコンビプレーやフォーメーションがうまくいき快勝しました。

松田史佳

昨日と同じ対戦チームということもあり、相手に対しての攻撃や守りも少しは理解していた。しかし相手も1試合目とは少し違い、ロングを止めればポスト、ポストを押さえればロングと多彩な攻撃でディフェンスをかき回してきた。

それに対して日本の攻撃は、昨日成功していた攻めにこだわりすぎた部分もあった。単発の速攻などでは点がとれていたが、ポスト、サイド、フローターのからみがうまく合わず、フォーメーションなども使えなかった。

今日の1試合目にあまり納得のいくゲームができなかったこともあり、2試合目は皆気合いが入っていて、前半8－3とディフェンス面でよくキーパーと合っていて良かったと思う。

自分自身、全く動きが悪く、チームの足を引っぱることが多かった。早く、自分のペースをつかまなければいけない。

やはり、対外国人は、体も大きいし、力もあるし、それに勝とうとするならば、自分の武器を最大に出さなければ、絶対無理なことだと痛感した。

ヤロスラフ・ムラッツ（チェコスロバキア）のハンドボール（その2）

オリンピックソリダリティー講習会より

指導方法委員会

委員　村松　誠、杉森弘幸、三輪一義

5月31日午後は、ディフェンストレーニングの実技が行われた。場所はJUKI体育館、デモンストレーターは東海大学ハンドボール部員であった。

フットワークを中心としたディフェンス練習

この間（5月30日午前の講義）はディフェンスについていろいろな面から話しましたが、オリンピックでは日本チームが非常に攻撃的なディフェンスをしました。このような攻撃的なディフェンスは、将来もこのまま保たれるべきだと思います。その中で非常に大切なことは、個人の技術、戦術と責任感です。特に相手の攻撃中にはディフェンスの選手はどうしても後手に回るので、もちろん相手のボールを持っている選手や持っていない選手の反応について行くことが大切ですが、ディフェンスにとっては予測することが大切です。予測しながらのディフェンスをします。予測を信じていつディフェンスを始めるかを考えることが大切となります。

悪いタイミングとしては、早く動きすぎることです。たとえば、ボールが出る前に動いてしまうことです。予測することとそれに対するリアクションをすることは別です。まず予測をして、相手のプレイに対してリアクションをしなければなりません。たとえば、パスが出た瞬間に動くことです。逆にパスが出た後では遅くなります。この時には攻撃側が充分にボールをコントロールしているので合わせるのだったら遅いのです。

大切な点は、特にディフェンスの時にはフットワークです。これは普通の人間の生活にないものなので、コンビネーション、筋力共に特別なトレーニングをして行かなければなりません。

以前は防御は最大の攻撃であると言いましたが、今はそう言いません。チームの実力が均衡している時にはディフェンスの質の良さが勝負を決めます。ですからいろんな方法をもって効果を高めて行くべきです。特にディフェンスの練習の時、たった一つの方法を用いると、集中力を必要とするので長くすることは非常にむずかしい。効果が上がらないからです。攻撃の練習は非常に魅力があるし、シュートも打てるのでどうしても面白い。ですから今日はいろいろなディフェンスの練習の方法をいくつかやってみたいと思います。

私の練習では毎日基礎練習を20分間します。それは攻撃の練習であり、ディフェンスの練習をやります。その後速攻の練習をやり、普通の練習をやります。

ディフェンスの練習は、基本的な練習ではありますが、私は常に時計を持っています。この練習は非常に集中力を必要としますので、10秒から20秒くらいからです。それを計測します。それと笛に反応すること、コートの場所を指定してそれに反応することに注意します。

①指定された地点までサイドステップを行う。ディフェンスの時、上に飛び上がるような動きは非常に悪い。顔は足元を見ないで正面に向けて行う。次にサイドステップでターンを行う。

②サイドステップで、途中で180度向きを変える（図1、山形波線はサイドステップを表す）飛び上がるような方向転換は悪い。

③サイドステップをしながら途中で2、3歩前につめる（図2）。ウォーミングアップの中に組み込んでやるのもよい。

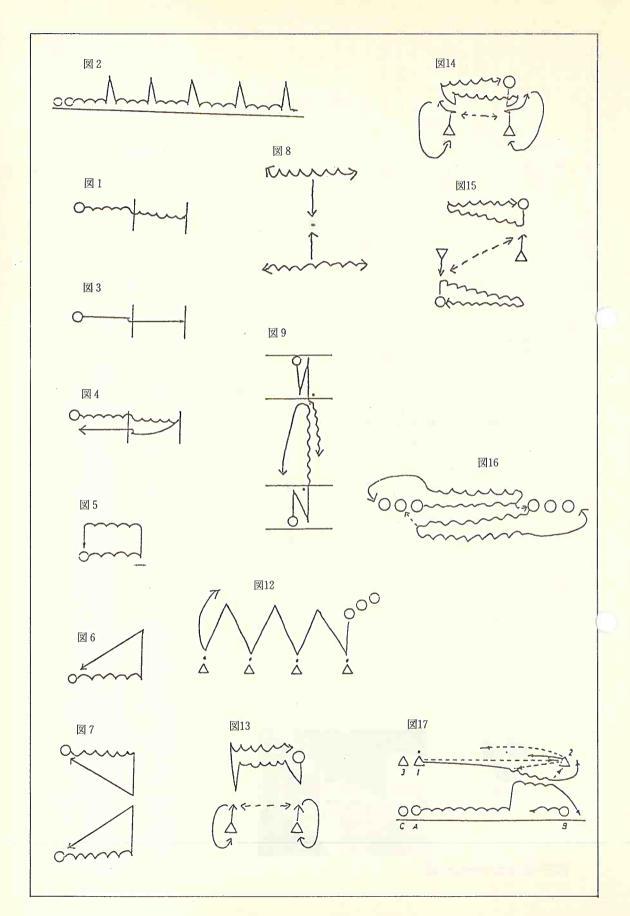
④オールコートを縦に使い、ジョッグとサイドステップのくり返し。笛の合図で行う。途中で方向転換したり、前につめる動きなどを入れる。

⑤前に向かって走り、途中で反転し、後ろ向きで走る（図3）。

⑥サイドステップで動き出し、途中で方向転換をし、帰りは前に向かって走り、途中で反転し後ろ向きで走る（図4）。

※これまでは一方向だけであったが、2～3回目にはいろんな方向に進める。

⑦右方向へサイドステップで始め、シュートブロックのために手を上げて前につめる。つめたらすぐに左にサイドステップをし、パ

図2
図14
図8
図1
図15
図3
図9
図4
図16
図5
図12
図6
図7
図13
図17
2
3
1
C
A
B

ックして元の位置に戻る（図5）。

⑧サイドステップで横に動き、前につめてすぐに元の位置に戻る（図6）。方向転換するときに時間を失うことが多いので大切な練習である。バリエーションとしては、2人組で向かい合い、同じ動きをし、つめたときに手を合わせる（図7）。15秒間できるだけやる。他に方向とか、順番を変えるとか、ボール置いてやるとかのバリエーションが考えられるが、他にもいろいろ考えるとよい。

⑨2人で向かい合い、まん中にボールを置き、互いにサイドステップをしていて笛の合図でボールにタッチに行く（図8）。先にボールにさわった方が勝ち。3本勝負。同様にして長座から、後ろ向きの長座から、1回転ジャンプから、ジャンプしながら回転しているところから行う。

⑩前、後のステップを1回行い、次にボールを前方に指定された位置まで持って行き、元の位置に戻す（図9）。個人のアイデアでいろんな方法、組み合わせがある。

能力、負荷に応じて実際のゲームに近づけて行う。

⑪フリースローライン上でサイドステップを全力で行う。

⑫フリースローライン上でサイドステップを全力で行い、45度で前につめ、そのままサイドステップで逆方向に行く。

⑬12番を次々とオールコートでくり返す。

⑭ゴールエリアラインからフリースローラインまでつめとバックをくり返す。つめるときにはシュートブロックに手を上げる。逆サイドまで行ったらセムターラインまでダッシュし、セムターライン上をサイドステップで反対方向に行き、ジョッグで元に戻る（図10）

⑮同じ動きをするが、つめはフリースローラインから12m付近まで行う（図11）。

⑯ディフェンスのつめの練習。ボールにタッチしてすぐ元のラインまで下がり、次のボールにタッチに行く。これをくり返す。30秒間全力で行う（図12）

⑰前（16番）と同じ配置で、ボールを持っているプレイヤーはあまり高くない位置からボールを落としてディフェンスプレイヤーにキャッチさせる。キャッチしたボールはすぐ元に返し、元のラインまで下がり、次のボールをキャッチしに行く。

⑱前（16、17番）と同じ配置。ボールを持っているプレイヤーは落とすような感じで出てきたプレイヤーがボールを奪い合うような状況をつくる。ボールを拾ったら横の次のプレイヤーにパスをし、元のラインまで下がり、すぐに同じことをくり返す。

⑲前（16、17、18番）と同じ配置で、ボールを持っているプレイヤーはステップ、アンダー、ジャンプなどのシュートモーションをつくる。ディフェンスはそれに合わせて反応する。アクションは同じように反応するから、攻撃はその気になってやっていないとディフェンスの練習にならない。

⑳攻撃プレイヤーはパスを受けてシュート態勢をつくる。それに対してディフェンスプレイヤーは前につめてシュートブロックに行く。攻撃プレイヤーはシュート態勢の後、次にパスを送る。ディフエンスプレイヤーはすぐ下がり、次のプレイヤーの所までサイドステップで行き、元の位置まで戻る（図15）。

㉓2つのグループに分かれて一方からドリブルでもう一方へ進む。他方のグループの所まで来たら先頭のプレイヤーにパスをする。パスを受けたプレイヤーは逆方向にドリブルで進み、パスをしたプレイヤーはサイドステップでドリブルについて行く。これをくり返す（図16）。

㉔前と同じだが、サイドステップのプレイヤーはドリブルカットを狙う。

㉕図17のように配置し、1のプレイヤーから2のプレイヤーにパスをし、パスした方向に走り、帰ってくるパスを受ける。ディフェンスプレイヤーはサイドステップでついて行き、パスがきた瞬間前につめ、その後のドリブルについて行く。攻撃プレイヤーは、2のプレイヤーの位置までドリブルで行きパスをする。パスを受けた2のプレイヤーは同じことをくり返す。

㉖前（25番）と似ているが、ディフェンスの配置が少し違っている。1番のプレイヤーは2番のプレイヤーにパスをして走り、ディフェンスはその走りにサイドステップでついて行く。2番のプレイヤーから1番のプレイヤーにパスが戻されたら、ディフェンスプレイヤーは前につめる。1番のプレイヤーはボールをキャッチしてすぐ反転し、ドリブルしながら元の方へ戻る。ディフェンスはそれに対してサイドステップでついて行

図10
図11
図18
2
1
3
A
B
C
図19
図20
A
1
図21
A
1
図22
図23
図24
図25
図26
図27
図28
図29

く（図18）。つめたときに1対1をするバリエーションがある。

※選手が常に興味を持てるようにいくつかのバリエーションをつくって行くことが大切である。今度は2人グループで行う練習である。

㉗2人のプレイヤーが並んで立ち、1人が攻撃プレイヤーとなり、前に走ってストップしたりバックランしたりする。ディフェンスプレイヤーはそれと同じ動きをしてついて行くようにする（図19）。

㉘2人が向かい合って立ち、1人が攻撃プレイヤーとなりサイドステップでターンをくり返す。ディフェンスプレイヤーはその動きについて行く（図20）。

㉙前の2つを組み合わせた練習で、攻撃プレイヤーは前に走ったり、ストップしたり、ディフェンスプレイヤーはそれにサイドステップでついて行く（図21）。

㉚ディフェンスプレイヤーは攻撃プレイヤーの後ろに立ち、攻撃プレイヤーの動きに離れずサイドステップでついて行く。攻撃プレイヤーは自由に走ったり、横に走ったり、バックしたりする（図22）。

㉛2人が向かい合って立ち、攻撃プレイヤーがフェイントをかけながら進み、ディフェンスプレイヤーは抜かれないように守りながら下がる（図23）。大切なことは常に一定の距離を保つことであり、ディフェンスの足が攻撃について行けるかどうかである。ここで戦術的なファールをしてはいけない。

㉜攻撃は一定の範囲でダッシュしたり、フェイントをかけたり、バックしたりいろんな動きをする。ディフェンスはそれについていく。反応の練習の一つである。

※今までやったものを発展させて実際のゲームに近づけていく。今からは、チーム戦術までは時間的に無理であるが、グループ戦術をやっていく。

㉝攻撃プレイヤーはシュートを狙って次にパスを出していく。ディフェンスプレイヤーは前につめパスが返ったらすぐパスの出た方のディフェンスの下までサイドステップですばやくいく（図24）。これをくり返す。

㉞攻撃プレイヤーはボールをキャッチしたらシュートフェイントをかけカットインを狙う。ディフェンスプレイヤーは前につめ、体の進行を阻止する（図25）。このときボールにいかないで、ボールと自分との間に攻撃プレイヤーを入れ体の進行を阻止する。ボールを持っている手にいくと必ず反則を取られる。

㉟前と同じ形にポストを置き、ディフェンスカバーの練習をする。攻撃プレイヤーはシュートフェイントからポストにパスをする。ディフェンスプレイヤーは前につめ、ポストにパスをされたらすぐカバーに行く（図26）。攻撃的ディフェンスでないときにはポストにカバーに行くことは当然のことである。

㊱攻撃プレイヤーはシュートフェイントからのパスを受けたらフェイントをかけ、ワンドリブルを使ってカットインをする。ディフェンスは割られないようについて行き、攻撃プレイヤーが終ったらすぐにホームポジションに戻り次のプレーを開始する。攻撃プレイヤーはパスをしたらすぐにホームポジションに戻り次の攻撃を開始する。これを次々とくり返す（図27）。攻撃的なディフェンスの欠点の1つにボールをパスされた後のディフェンスに行くのが遅いことである。

㊲ディフェンス2人にポストを図のように配置する。攻撃プレイヤーはシュートフェイントからパスをし、パスを受けたプレイヤーはフェイントをかけ、ポストにパスをする。パスをしたらポストのポジションへ行く。ポストはボールを持って攻撃側の後ろに回る。ディフェンスはすぐにポストのカバーに行き、すぐ次の攻撃を守りに行く。前の練習と同じように、シュートフェイントからパスをした攻撃プレイヤーはすぐにホームポジションに戻り次の攻撃を開始する（図28）。これをくり返す。

㊳攻撃プレイヤーの間にディフェンスプレイヤーが図のように立ち、攻撃プレイヤーがシュートする。ディフェンスプレイヤーはシュートブロックをしてすぐホームポジションまで戻るシュートをキャッチした反対側の攻撃プレイヤーは、すぐ次の攻撃プレイヤーにパスを出し同じことをくり返す。ディフェンスはその都度つめては下がる（図29）。20秒間行う。

㊴同じ形で攻撃プレイヤーはドリブル、パス、フェイントなどから行う（図30）。30秒間行う。

㊵前と同じ練習であるが、ディフェンスプレイヤーはボールが渡った先の攻撃プレイヤーの所まで行き、そこで出されたボールをノーバウンドでキャッチ、返してから次のプレーを行う（図31）。

㊶ディフェンスプレイヤーとボールを持った攻撃プレイヤーと向かい合って立ち、攻撃プレイヤーはシュートを打ちに行き、ディフェンスプレイヤーはシュートブロックに行き、すぐにお互いに下がる。下がったらすぐに同じことをくり返す（図32）。15秒間全力で行う。

㊷攻撃とディフェンスプレイヤーで1対1を行う。ワンプレー終ったらすぐに元の位置に戻り次のプレーを始める（図33）。30秒全力で行う。

㊸2人で向かい合って立ち、ボールを持ったプレイヤーはその場にボールを少し投げ上げ後ろに下がる。もう一方のプレイヤーはすぐ前に出てそのボールをノーバウ

ンドでキャッチする。キャッチしたら前のプレイヤーと同じようにボールをその場に少し投げ上げて下がる（図34）。バリエーションとしては、シュートモーションで1回つめて、2回目にその場でボールを少し投げ上げるようなやり方がある。30秒間行う。

今日はポジションにとらわれない個人のディフェンス練習であった。これからもちろんポジションごとの個人ディフェンス練習をやっていかなければならない。また、自分の先の選手がどのような動きをするかわかっていなければならない。そして2人、3人のグループの練習、あるいは6人のディフェンス練習をやって行かなければならない。

最後にシュートブロックのときの手の使い方について質問が出てムラッツ氏は次のように答えられた。「シューターと距離のあるときには両手を上げる。距離がないときには、片手は理想的にはボールにいき、もう一方で相手の体を抑える。そうすれば背の高い選手でもシュートが浮いてくる。やってはいけないことは、相手を後ろに押し返すことである。」

図30　図31　図32　図33　図34

特別寄稿

1988年ソウル・オリンピックに出場の女子ハンドボールチームのゲーム分析

阿部徳之助(自治医科大)、松井幸嗣(日体大)、
北川勇喜(日体大)、竹内正雄(星薬科大)、、
森川寿人(九州女子大)、申　吉洙(円光大)、
西山逸成(防衛大)

1. はじめに

ハンドボール競技で世界水準をリードするヨーロッパ諸国では、例外なく大型選手でチームを構成している。それに比べて、アジアの日本、韓国、中国は、形態的に列強水準にやや劣る傾向にある。しかし韓国の男女は、形態水準が低いという劣勢にもかかわらず着実に成果をあげ、1988年ソウル・オリンピックでは、女子チームは金メダル、男子チームは銀メダルの快挙を成し遂げた。

最近の世界における試合展開の傾向は、スピーディで高度なテクニックと、さらに正確なボールコントロールがますます求められてきている。本研究は、1988年ソウル・オリンピックに出場した女子ハンドボール競技のゲーム分析を行ない、日本ハンドボールの競技力の向上に役立てる資料を得ることを目的とした。

2. 方法

出場チームでは、A組は韓国、ユーゴスラビア、チェコスロバキア、アメリカ、B組はソビエト、ノルウェー、中国、アイボリーコーストの計8か国である。ゲーム方式は、A組、B組に分けての予選リーグで両リーグ上位2チーム、下位2チームのなかでのリーグ戦を行なって順位を決定する方式である。

予選リーグのA・B組の12試合と決勝リーグおよび順位決定戦の6試合の合計18試合をビデオで撮影した。ビデオからの試合分析は次の通り行なった。①攻撃回数に対するシュート率、②攻撃回数に対する技術的なミス率、③シュート成功率、④攻撃のパターンによる得点、⑤ポジション別によるシュート回数と成功率、⑥ポジション別からみた総得点数の配分の6項目を分析した。

3. 結果

①予選リーグの分析

図1は1988年ソウル・オリンピック出場チームの身長を比較したものである。

身長を国別でみると、ソビエト、ユーゴが最も高く、次に中国がノルウェーと並んで大きい値を示した。チェコが170cm台で最も小さく、その他韓国、アイボリーコースト、アメリカは160cm台である。日本がソウル・オリンピックに出場できなかったが、参考に示すと韓国チームと同一水準であった。

図2は、攻撃回数に対するシュート率回数に対する技術的なミスを示した。

この攻撃回数に対するシュート率とは、チームがボールを保持し

てから攻撃した回数と攻撃間にミス等が発生せずにシュートをした回数との割合である。

これによると、A組はチェコスロバキア83%、アメリカ79%、韓国77%、ノルウェー76%、アイボリーコースト56%、中国55%の順に攻撃に対するシュート率に高値に示した。一方、攻撃回数に対する技術的なミス率（パス、オーバーステップ、ラインクロス、警告、退場）のA組では、チェコスロバキア15%、アメリカ21%、韓国23%、ユーゴスラビア31%、B組ではノルウェー27%、中国28%、ソビエト33%、アイボリーコースト44%の順にミス率が低い傾向を示した。

図3はシュートの成功率と攻撃型による成功率を示した。これによると、A組では、韓国62%、チェコスロバキア61%、ユーゴスラビア56%、アメリカ45%、B組では中国66%、ソビエト65%、ノルウェー60%、アイボリーコースト36%の順にシュート率の高い傾向を示した。

次に、遅攻、速攻、ペナルティースローなどによる攻撃型による成功率をみてみると、遅攻で得点に成功した順でみると、A組はソビエト、ノルウェー、中国、アイボリーコーストの順に高い傾向を示した。

次に速攻で得点に成功した順では、A組では韓国、ユーゴスラビア、チェコスロバキア、アメリカ、B組はソビエト、ノルウェー、中国、アイボリーコーストの順に高い傾向を示した。

ペナルティースローでは、A組は韓国、ユーゴスラビア、チェコスロバキア、アメリカ、B組は中国、ノルウェー、ソビエト、アイボリーコーストの順に高い値を示した。

以上の攻撃型のうち、速攻と遅攻による得点計と速攻（遅攻）との得点率をみると、A組ではチェコスロバキア35%（65%）、韓国27%（73%）アメリカ23%（77%）、ユーゴスラビア17%（83%）をそれぞれ示した。B組では、ソビエト33%（67%）、ノルウェー32%（68%）、中国25%（75%）、アイボリーコースト7%（93%）の得点傾向を示した。

図4、図5は、ポジション別からのシュート率と総得点の割合を示したものである。

図4は、シュートコース別に総得点に対して高い得点率を示した区域を国別にみたものである。A組の韓国は、C・B区域で50%、ユーゴスラビアはC・B区域で60%、チェコスロバキアはC・D区域で54%、アメリカはC・D区域で66%のそれぞれの得点率を示した。

図5では、B組のソビエトはC・B区域で64%、各国ともC・B・D区域からの得点が多く、区域別得点傾向はそのまま各国の攻撃特性といえよう。

以上は中央区域をみたが、またA・E区域からの特性としては、A組では韓国（A）、チェコスロ

図1　1988年ソウル・オリンピック出場チームの身長の比較

図2　攻撃回数に対するシュート率と攻撃回数に対する技術的なミス率

図3　シュート成功率と攻撃型による成功率

B組リーグ戦（ソ連，ノルウェイ，中国，アイボリーコースト）

上段の数字：シュートコース別によるシュート率
下段の数字：総得点数からみたシュートの割合

図5　ポジション別からのシュート率と総得点数からの得点率

A組リーグ戦（韓国，ユーゴ，チェコ，アメリカ）

上段の数字：シュートコース別によるシュート率
下段の数字：総得点数からみたシュートの割合

図4　ポジション別からのシュート率と総得点数からの得点率

バキア（A・E）、ユーゴスラビア（A）、B組ではソビエト（E）ノルウェー（A）、アイボリーコースト（E）であり、それぞれ10～15％の得点率をあげている。

②決勝リーグの分析（金・韓国、銀・ノルウェー、銅・ソビエト）

図6は韓国、ノルウェー、ソビエトの3か国による決勝リーグの攻撃回数に対する「シュート率」と攻撃回数に対する技術的な「ミス率」を示した。

シュート率では、韓国は前半82％、後半72％、平均77％、ノルウェーは前半67％、後半77％、平均77％、ソビエトは前半68％、後半57％、平均63％であった。

次にミス率をみると、韓国23％、ノルウェー28％、ソビエト37％で韓国が最もミス率が低く、これに比べてソビエトは韓国の約1・5倍（16％）を示した。

図7は、シュート成功率と攻撃

図6　決勝リーグの攻撃回数に対するシュート率と技術的なミス率

図7　決勝リーグのシュート成功率と攻撃型の成功率

型による成功率を示した。

シュート成功率では、韓国は前半47％、後半49％、平均48％、ノルウェーは前半53％、後半30％、平均41％、ソビエトは前半44％、後半30％、平均38％を示し、韓国、ノルウェー、ソビエトの順である。

次に、成功したシュートがどのような攻撃型によって得点成功に結びついたかについてみると、遅攻型ではソビエト47％、韓国39％、ノルウェー39％、速攻型ではノルウェー100％、韓国67％、ソビエト60％で、ノルウェーは最も高得点率を示した。

さらに、総得点数から、遅攻型（速攻型）の得点率をみると、速攻では韓国27％（73％）、ノルウェー23％（77％）、ソビエト18％（82％）をそれぞれ示した。

図8はポジション別からシュート率と総得点数からみた得点の割合を示した（上段の数字は、シュートコース別によるシュート率、下段の数字は総得点数からの得点の割合）。

総得点数からの各コース別の得点率をみると、韓国はC区域からの得点率が最も高く46％で、次にB区域19％、D区域の15％の順である。ノルウェーは、C区域30％、D区域20％、A区域14％を示し、ソビエトはC区域35％、D区域22％、A区域15％を示した。さらに各国のB・C・D区域からの得点では韓国80％で最も高く、次にソビエト72％、ノルウェー58％で、各国とも中央区域で得点をあげている。

図9は、1988年ソウル・オリンピックの成績順位からみた身長値を示した。

これによると、韓国とノルウェーの平均身長差は60㎝、ソビエト8㎝であり、その中には180㎝以上の選手は、ノルウェーに4人、ソビエト7人、韓国には1名のゴールキーパーのみである。

決勝リーグ戦（韓国，ノルウェイ，ソ連）

上段の数字：シュートコース別によるシュート率
下段の数字：総得点数からみたシュートの割合

図8　決勝リーグのポジション別からみたシュート率と総得点数による得点率

図9　1988年ソウル・オリンピックの成績からみた身長差

4. 考察

1988年ソウル・オリンピック出場女子チームの8チーム中、韓国の身長はソビエト、ユーゴスラビア、ノルウェー、中国（アジア）と比較し、有意（P＜0.01）に低く、参加チームの中で身長の順では第6番目である（図1）。

このように、アジアの韓国チームがヨーロッパや東欧諸国の平均188㎝の長身選手たちを相手にどのようにして金メダルを手にしたのだろうか。その要因や背景は攻撃や防禦において、競技の終始を通じて、よく動き、よく走り、スピーディな試合展開のできる基礎的な体力が充分に育成されていたものと推察される。

このことは、決勝リーグ戦（図6、7）をみても明らかである。その理由のまず第一は、ボールを保持してからシュートまでの成功率や技術的なミス（パス、キャッチ、ラインクロス、チャージング、退場、警告）が、ノルウェーやソビエトよりも少ない。

次にシュートの成功率をみても、韓国は最も高得点率を示し、ノルウェーやソビエトは、前半はほぼ50％水準のシュート率を示しているが、後半極端に低下し、韓国チームのスピーディな試合の展開に対し特に後半は充分な対応ができず、結果的にミスの誘発やシュー

トの成功率の低下をきたしているものと考えられる。

韓国チームの高内勲（コービヨン氏）監督[1]は世界スポーツ・コーチサミットで長期計画のチームづくりのなかで、ヨーロッパ諸国に勝つために、試合の終始を通じて素早く走り回ることのできる選手を育成するために体力トレーニングを日間トレーニングに30％以上の時間をかけ、しかもソウル・オリンピック前の1週間前までそのトレーニングを行なったことを明らかにしている。

このことからも、韓国チームは基礎体力の重要性を充分意識し、長期的な計画のもとで着実にトレーニングを実践させた結果である。

また、他種目のバレーボール競技では、1989年、日本で開催されたバレーボール・ワールドカップをみると、キューバチームは男女アベック優勝で、大会史上初めてである。そのゲーム内容は、パワー・スピード、そしてジャンプ力で勝り、圧倒的な強さを発揮した。

その強さの背景は、やはりしっかりとしたトレーニング計画のもとで強化が進められていることである。そのトレーニング内容は、1日約7時間で、その内50％をウエイトトレーニングや運動に必要な基礎体力の強化にあてていることとである。キューバチームの男女の強さの秘密は、やはり体力づくりにあるようである。

ワールドカップやオリンピック大会に優勝するためには種々の要因があるなかで、基礎的体力も重要であることの示唆を与えてくれた。

また、「アジアの中国、韓国、日本のスポーツ選手の強化を防げている要因」[2][3][4]というテーマでの一連の研究報告がある。

それによると、日本、中国、韓国における指導者の特徴では（1986年6月アンケートによる調査、対象者、ジュニア・スポーツ選手を指導している指導者を対象とした）、①1週間の指導日数では、1日当りの指導時間では、日本の指導時間は4～5時間、中国、韓国に比べて少なく、②選手の適性の見出し方と情報の入力の仕方（第4報）では、中国では「一般運動能力」や「種目特有の基本技能」で総合的な判断で選手を見出しているのに対して、韓国は「人間性」を重視し、「格闘技には根性」「血液型」「学校からの推せん」などによって適性を見出している。

また、指導情報の入手の方法では、「自分の競技の経験から指導法の考案」「選手の行動から独自の指導法を考案」の検討等も行なっている。

さらに、中国、韓国の強さの秘密とアジアにおける競技相手国では（第5報）その中国、韓国の強さの秘密はどこにあるか、両国の指導者は、基本的練習の大切さと勝利への意欲、選手と指導者の信頼関係が強さの秘密を考えているという報告[4]がある。

韓国、中国は、日本を充分意識しながらも、世界のソビエト、アメリカに充分に目を向け、強化を進めている。

さて、日本は1976年モントリオール・オリンピック大会に出場チームの平均身長162・5±4・5cm、1985年（第4回世界選手権）166・5±4・5cm、1980年（モスクワ大会アジア予選）164・5±5・0cm、1987年（ソウル大会アジア予選）167・5±5・5cm、1989年全日本168・0±5・0cmで僅かずつではあるが13年間で約6cmの身長の増加がみられている。日本はアジアの韓国、中国に比べて益々競技力の差が広がるばかりである。形態的には韓国と日本は類似の傾向にあり、身長をみてもほとんど差がみられない。力の差の原因は、韓国のチームづくりにあると思われるので、詳細な分析を行なう必要があろう。

特に、体力、技術、精神的な面の比較検討や選手の資質、指導者などの考え方などの調査研究が急務であろう。

これまでも日本が世界に勝つためのチームづくりを行なってきているはずであろうが、その効果は顕著にみられていない。それは何であろか。充分な反省と研究も必要であると考えられる。

ハンドボール競技力の向上には長期的なトレーニング計画を現実的なスポーツ医・科学的側面から実践されるべきである。

「ローマは1日にして成らず」という格言があるように、1歩1歩着実に前進することが競技力の向上につながり、このままではアジアの韓国、中国に広がることがあっても優位に立つことは至難のことであろう。

〔文献〕

(1) スポーツと国際交流、世界スポーツ・コーチサミットⅢ報告書、1989

(2) 矢作晋、財満義輝他・スポーツ選手の強化を防げている要因―日本・中国・韓国における指導者の特徴―コーチング・クリニック、3、1989

(3) 矢作晋、財満光輝他・スポーツ選手の強化を防げている要因―中国・韓国における選手の適性の見出し方と情報の入手の仕方―、コーチング・クリニック、9、1989

(4) 矢作晋、財満義輝他・スポーツ選手の強化を防げている要因―中国・韓国の強さの秘密とアジアにおける競争相手国―コーチング・クリニック、11、1989

近代的方法によるレフェリーの基礎トレーニング

ハルヴォー・イエンセン（デンマーク）
PRCレクチュアラー

我々は現在国内的にも国際的にも各種大会を見て、トップレベルのレフェリーと言えどもその資質に大きな相違があることを認めざるを得ない。心理的（精神的）にも身体的にもプレイヤーの備える適性基準は日を追って高度なものとなりつつあり、それをもとにして彼らはレフェリーサイドに対する要求を、より一層増幅させると言う結果を生じている。

ハンドボールの特質の変化は、そのプレー中の特別な戦術モード、激しさの程度、スピード化によりレフェリーに多大の能力と集中力を要求するようになってきた。そのため、近い将来レフェリー側としてはルールとその解釈を教えるとともに、彼らの人格向上と心理学的素質面のトレーニングの確実な保証を要求する権利がある。我々はレフェリーについての基礎的なトレーニングと上級研修トレーニングとして、次のような特質を示す。

(a)人々を動かし、決定を下す。
(b)責任感と独立的精神。
(c)柔軟性と全体的視野能力。
(d)任務に誇りと自負心を持つこと。
(e)集中力と献身的精神。
(f)その他。

各年次講習会で我々は集中的な方法手段により、試合の理論理解の進歩を目指して、ルールとその解釈の研修学習を定着させるようにしてきた。これらの研修はレフェリーの基礎学習として絶対不可欠のものである。

現行のルールブックは、ほとんど完全とも言える体裁を備えている。私の考えでは、第8条（段階的罰則適用）に示されていることはプレイヤーの安全を守るための悪影響要素の排除を目指した素晴らしい出来具合であると思っている。次に、我々はレフェリーがルールの完璧な知識とその解釈について確実に伝達教示してやるとともに、そのトレーニングではレフェリーとしての特質、人格、精神的な平衡バランスの改善と向上を一層強調して、レフェリーがコートに立つだけで既にプレイヤーとコーチ、チーム役員の信頼感が高められるというところまで仕向けなければならない。現在の個人社会ではマネージャーの人格性と言うものが非常に重要視されている。人間性に魅力を持たないものはトップレベルの地位にはつけられない。知識だけのエキスパートはリーダーとしての人格性に欠けている限り、急速に役立たずになる。

そこで我々はレフェリーが徹底的な理論知識とかたよりのない精神的強さが確実にえられる研修トレーニング体制を組織しなければならない。これが機能して初めてレフェリーはその任務にプライドを持てるようになるのである。

人格の重要性は、レフェリーが第17条にある対人的に罰則を適用する時にはっきりした形となって現れる。皆さんはあの有名なトップレフェリーである、オイヴイント・ボルスタットの風貌を記憶していると思うが、彼はイエローカードやレッドカードを示す時は常に相手の眼をまっすぐに見据えて自信と威厳に満ちて行動していた。記録計時係、チーム役員および観衆は彼の笛が強い調子で高らかに吹かれた時は、それこそレフェリーが「有無正否に疑念を持つことを許さない状況である」ことの語りかけとして受け取っていたのである。これはレフェリーが笛をうまく使って音の出し方に変化をつけているので、プレイヤーやチーム役員は今発生したのは通常の反則なのかシリアスなひどい反則なのかすぐに理解できる。この状況が、任務に対する誇りと言うものを明白に証明しており、プレイヤーからの敬意と信頼を獲得するために非常に重要なことである。これこそレフェリーの人格であり、プライドのセンスであり、力（権力）の誇示ではないことを知ってほしい。

トップレフェリーだけが、このトレーニングを受けるにとどまらず、これを新しいレフェリーにも早期に基礎トレーニング課程の教材に取り入れることが必要である。我々は全てのレフェリーがすべてのレベルの試合にこの最高のパフォーマンスを要求出来ることを期待しているので、全レフェリーはこのトレーニングを受ける権利があると言える。

真剣で本気のレフェリーだけがトップレベルに到着できる。トップレフェリーとなるための条件は、上級者研修コースで高いレベルの徹底した基礎トレーニングを受けることである。

デンマークでコーチ連中が言うには、「デンマークではレフェリーが貧弱であるうちはとても進歩発展が望めない」と。私は言い返したい。「レフェリーは試合がレベル以下であるうちは進歩できない」と。私はルールの専門分野担当者として、ハンドボールの特質とレフェリーのそれとの間には一定の信頼関係があり、むしろリーダーがいない方が良いではないかの念を持つことがある。

我々がデンマークで近代的方法による基礎レフェリーを開始する以前の大問題は、レフェリーがどんどん減って行くことであった。このことは北欧圏グループの会合で論議されたが、これはまさしくどこの国でも同じ事情であることが判明した。デンマークでは、レフェリーの20％が毎年やめていくのに比べて、新人養成は行われているものの人数的には少な過ぎた。

デンマークの規則審判委員会は、レフェリーのかかえる問題として、以下のことをあげる。

(a)試合はより早く、より激しく、そしてより戦術的なものとなってきた。
(b)プレイヤーは身体的にも、精神的にも良いコンデションである。
(c)チーム役員やコーチプレイヤーに対して、いつどこでもレフェリーの威信は皆無であった。
(d)報道機関や、スポンサーからの収益に対する考慮の必要
(e)その他

その当時の研修トレーニングは、24時間ぶっつづけで実地訓練、理論テストが含まれていたが、これが良い結果に結びつかなかったことの要点をあげると

(1)レフェリーの演技実態がプレイヤー、コーチ、マネージャーらの期待に満足を与えるものではなかった。

(2)レフェリー自身が満足感を得られず中途でやめてしまった。

(3)新人発掘が一層困難となった。

ここで何とかしなければならないとの動機で、我々はやめてしまったレフェリーの代表的なグループに対して次のような設問をした。

(a)なぜレフェリーをやめる気になったか
(b)興味関心が無くなったからか
(c)コーチに転身したいからなのか
(d)コーチやマネージャーらの好ましくない態度からなのか
(e)プレイヤーらの好ましくない態度からなのか
(f)毎年義務的に上級トレーニングに出なければならないからなのか
(g)上級研修レフェリーにお金がかかるからなのか
(h)レフェリーへの手当が少な過ぎるからなのか
(i)交通費の払い戻しが少ないからなのか
(j)協会の支援が少ないからなのか
(k)レフェリーに関する情報が少ないからなのか
(l)審判部の支援が少ないからなのか
(m)昇進への可能性が限られているためか

同時に我々は、コーチに対して、良いハンドボールのレフェリーの期待像を問い、次のような返事を得た。

レフェリーは柔軟な性格を持ち集中力があり、ひたむきであり、そして専制的ではない威信を備えたものでなければならない。レフェリーは対立やトラブルを解決するとか、プレッシャーに負けない能力とか、そして試合の正しい理解力、エキスパートたるに相応しい知識、任務についてのプライド、人を引きつける人格力（カリスマ性）を備えているべきである。レフェリーにはどんな人格的特質が求められるかについての調査もほとんど同様なものが返ってきた。途中でやめたレフェリーへの質問の答えでは、初めに出した5個の設問について何らの変ったコメントはなかった。

特別基礎トレーニングと上級研修トレーニングでは、レフェリーの人格性、精神的な強靱さ、そして身ぶり手ぶりでの表現方法などの成長増進を図る。

上記の目的のため、任務についてのプライドは基礎理論知識と人格性と精神的強靱さが備わってこそ達成されると言う方向に変更修正されたのである。

我々はまた次にあげるいくつかの段階過程に分けた上で基礎トレーニング内容の変更修正が目的に合致するようにした。

1．競技規則は、シルバーブックと称する学習用の練習記録ノート中に明記されており、いつ何どきルールやその解釈に何らかの変更修正があっても、直ちに訂正追記出来るようにしてある。さまざまな例や挿絵写真などが強調ポイントを示している。全レフェリーは、このシルバーブックを購入することになっている。

2．ルール解釈の説明はテーブルに吹き込まれていて、誰でも個人的に時間を作ってそれを聞き勉強出来るようになっている。

3．ルールの遂篠説明、特に第8条の相手への接近動作で何が許されないか、何が段階的罰則適用に相当するか等明確化するための資料も配布される。

(a)基礎的専門用語と競技原理
写真は第7条中の許される事項を示している。

(b)技術的エラー
パッシブプレイ、フリースロー判定後ボールを下に置かないスローインのやり方等

(c)規則違反（その1）
ボールをとろうとしている時の動作なのか、またフリー状態のボールなのか、またボールをとろうとして派生的に生じた動作と見るか

(d)規則違反（その2）
防御動作か、ボールを対象とせずに相手に対して極端に行なわれた動作なのかどうか、これは相手がボール保持であるかいなかは問題ではない。

写真シリーズがアレンジされているが、これは動作の変化の程度を示すことで、レフェリーが適当な罰を下すためにそれぞれの反則の形を覚える助けになり、結果として決定への判断は首尾一貫したものとなる。

4．次に「2種類の目で見る」と俗に言われるビデオの応用について記す。ビデオは研修試合状況下のルール運用を始めから終まで再現するので、レフェリーは自分自身の試合での有様を見ながらゆっくりと説明を受けることが出来る。

文書型式の教材は個人的な勉強に当てるものであり、我々は平均的教育水準の人であれば、その中のルールとその解釈を読み、自身の能力で理論を学ぶことが出来るものと考えている。我々はこのようにしてデンマーク協会審判部とともに、エリートレフェリーたちにとって有益な国内研修体制を開発したのである。

エリートレフェリーたらんと望むレフェリーたちは研修集合日夜紹介が終わると直ちに理論教材をすべて遂げるための日程が決められる。

その後講師と試験委員が立ち会う試験日が決められ実施される。ここではエリートレフェリー候補者は口頭諮問も受けた上、順番にルール解釈と、シルバーブックに出ている内容の深層におよぶ質問をして良いことになっている。

エリートレフェリー候補者は30問題を与えられ、合格には24問の正解が必要である。

試験に合格して新しく任命されたレフェリーは最高監督（ゴッドファーザー）が観察者に預けられ、人格・精神力の強化向上を目指す方法での実施的研修が始められる。

新任レフェリーは各種の試合を割当られるが、そこでは最高監督か観察者が常に付添って彼のパフォーマンスの良い点をチェックする。

新任レフェリーの世話について

新任者は最低限4試合研修するが、付添うのは観察の部門でもレフェリーの部門でもベテランとされる豊富な経験と理解力を備えた最高監督でありその指導を受ける。

研修試合の内容の経過を知り、その中での失敗を指適訂正してやるためには、4試合と同一人物の付添いが重要である。

4試合終わった後で、もし最高監督者か観察者がこの新任者の総合的評価が十分であると判断すれば、次はその評価査定に直接関わりを持つ人が彼を別の眼で再評価するために指導者交代の意味で引き継がれる。このときのレフェリーのパフォーマンス評価は「満足

的である」とするものでなければならない。評価責任者は評価用紙に所要の事項を記入しライセンスを発行する同時に特別訓示や指示も与える。

最高監督と観察者のつとめ

試合前：

(a)笛、カード、コイン・イエローカード、レッドカード、鉛筆などの所持確認。

(b)レフェリーカードに所要事項の記入はすんでいるか。

(c)コートに入る前に疑問点の解明・打ち合わせはすませているか。

(d)記録席に同行して新人であることを知らせ挨拶させる。

試合中：

(a)終了後話してやることを念頭において彼らのパフォーマンスについてメモをとる。

(b)観察者には試合をとめる権限はない。新レフェリーはすべての状況に責任を持って決定を下さねばならない。

ハーフタイム中：

(a)このときは新レフェリーの肯定的プラス面を強調するように話をする。

試合終了後：

(a)規定による試合報告書（Score Sheet）にレフェリーがサインをしたかチェックする。

(b)報告書に結果が正しく記入されているかをチェックする。

(c)ディスカッションでは良かった点を強調し、失敗は修正と改善をどのようにするかの助言忠告をしてやる。

(d)必要ならば報告書記入を手伝ってやる。

(e)観察者の今後の行動予定をコピーして渡す。

観察者の検討についての意見、感想の例

誰それは、レフェリーを最下級から始めることに少し困難点があるのではないかと思われる。私の考えでは彼の本業はいわゆるスーパーセールスマンと言われるくらい有能な人であるからかも知れない。云々。

(a)〇〇は1回目の試合に比べて長足の進歩を遂げた。

(b)××は無意味なフリースローは吹かなかったが、攻撃側にも防御側にも同じようにしてしまった。

(c)△△はゼスチュアがはっきりしている。

(d)〇〇は攻撃側の反則を良く吹いた。

(e)××は修正指示の後の笛を忘れていた。

(f)△△は言葉をしゃべると同様に笛を高らかに吹いていた。

(g)□□は警告・退場の判定時に時間をかけて試合の零囲気の沈静効果を図っていた。

(h)〇〇はコートの観察位置の取り方はうまくやっているが、歩くような動きよりも、もっと走ることに心がけること。

(i)××は罰を下した後のスローをする位置の決定についてもっと強い態度をとるべきである。（笛を吹いて自分の身体で位置を明示するなど）

△△は私の経験と知恵から積極的に学びとろうとしている。

□□は何回にもわたって私を呼んで、試合のことと彼の観察内容と判定吹笛した場面について話し合いをした。

××はペアレフェリーとの協調に少し欠けるところがある。

〇〇は確実にもうシニアかジュニアの試合を割当られても良い状態である。このことで彼は低いレベルで吹くよりも心理的に一層発奮するであろう。

モデルコースの紹介

これは毎晩3時間ずつ5回、何人かのインストラクターがついて行なわれる。

このコースは優れたものばかりではあるが、時間がかかることと、多くのインストラクターを必要とすることが問題である。しかし、新レフェリーは洗練され、すぐに上手に吹笛演技をするようになる。

第1夜：レフェリーのおかす最も
　一般的な失敗について

(a)プレイヤーを評価すること

(b)コーチを評価すること

(c)研修コースに出席する意義目的のとらえ方

第2夜：実技練習

(a)経験取得

(b)正しい方法の指導

第3夜：レフェリーとしての練習

(a)新しく教育されたレフェリーであることから

(b)ベテラン的なレフェリーへの進歩向上過程

第4夜：ルールとその解釈についての指導

(a)導入・序論

(b)ルールを一通り通読する

(c)ビデオ応用教育

(d)トレーニング体操運動

第5夜：まとめと助言忠告

(a)筆記試験

(b)試験結果と評価に目を通す

(c)新レフェリーへのアドバイス
（会合や観察期間の指示）

この後、引き続いて前記のように最高監督または観察者による最低4試合の実地研修トレーニングが行なわれる。

はじめの2回の試運転的なコースの結果はどうであったか？我々は個人的学習コースを効果的にするためルールとその解釈についての基礎トレーニング内容を変更した。そして新レフェリーの人格向上への力づけと心理的な動機づけによって、彼が試合を一層うまくとり仕切るようになり、ルールの文字と精神を保持体得出来るように実地の練習にサポートを与えることを強調する。

今までに判明したこと

(a)新レフェリーは以前より、はるかに進歩を示している。

(b)中途断念のレフェリーの割合が低い。

(c)コーチ・プレイヤーは彼の演技に満足の意を表わしている。

(d)プレイヤーたちは新レフェリーが試合についての洗練された感覚と高度な集中力とより高い威信を備えていると見ている。

このタイプのトレーニング方式は新しい。まだ2年しかたっていない。これからも時代に即応するとか、細部についての変更はありうる。我々はこの基礎コースの成果に満足しているものの、これには多大の費用と時間、インストラクター、最高監督、観察者そして評価担当者も必要であるが、それだけにまたやり甲斐のあることでもある。

我々は今上級研修レフェリーの充実改良を考えているが、そこではレフェリー心理学、知覚直感力、ゼスチュア表現を教えることになるであろう。勿論これは他のレクチュアラーが担当して行なわれる。

関西学生

▼男子1部

大経大 20-19 同大
大経大 25-20 大体大
大経大 25-16 京産大
大経大 33-11 関大
大経大 27-17 挑山大
大経大 42-20 立命大
大体大 28-20 同大
大体大 26-11 京産大
大体大 28-19 関大
大体大 36-14 挑山大
大体大 35-20 立命大
挑山大 20-18 同大
挑山大 21-15 京産大
挑山大 18-17 関大
挑山大 25-18 立命大
同大 21-16 京産大
同大 28-19 関大
同大 28-22 立命大
関大 26-18 京産大
関大 22-21 立命大
京産大 17-15 立命大

〔順位〕①大阪経済大②大阪体育大③挑山学院大④同志社大⑤関西大⑥京都産業大⑦立命館大

▼男子2部

天理大 22-17 京教大
天理大 16-12 近大
天理大 23-19 大教大
天理大 27-16 関外大
天理大 23-17 京大
天理大 33-21 仏大
京大 17-16 京教大
京大 23-20 近大
京大 19-16 大教大
京大 31-18 仏大
関外大 18-13 京大
近大 24-17 京教大
近大 22-19 大教大
近大 24-18 関外大
近大 26-22 仏大
大教大 29-20 京教大
大教大 19-19 関外大
大教大 26-25 仏大
京教大 23-20 関外大
京教大 26-18 仏大
仏大 12-0 関外大

〔順位〕①天理大②京都大③近畿大④大阪教育大⑤京都教育大⑥関西外国語大⑦仏教大

▼男子3部

和大 24-22 阪大
和大 17-17 神大
和大 21-16 甲南大
和大 27-11 龍大
和大 24-15 滋大
和大 30-18 大府大
神大 30-21 阪大
神大 20-18 甲南大
龍大 25-23 神大
神大 19-19 滋大
神大 26-21 大府大
阪大 21-18 甲南大
阪大 36-20 龍大
阪大 27-16 滋大
阪大 28-21 大府大
甲南大 23-21 龍大
甲南大 24-15 滋大
甲南大 28-27 大府大
大府大 21-19 龍大
大府大 20-9 滋大
滋大 22-14 龍大

〔順位〕①和歌山大②神戸大③阪大④甲南大⑤大阪府立大⑥滋賀大⑦龍谷大

▼男子4部

大市大 29-14 大院大
神院大 30-17 大市大
大市大 23-17 京工大
大市大 19-17 関学大
大市大 23-9 大産大
大市大 50-18 奈教大
大院大 23-16 神院大
大院大 35-20 京工大
大院大 23-16 関学大
大院大 37-9 大産大
大院大 29-21 奈教大
神院大 29-26 京工大
神院大 30-22 関学大
神院大 25-16 大産大
神院大 37-24 奈教大
関学大 25-12 京工大
関学大 26-16 大産大
関学大 36-27 奈教大
京工大 19-14 大産大
京工大 29-28 奈教大
大産大 31-28 奈教大

〔順位〕①大阪市立大②大阪学院大③神戸学院大④関西学院大⑤京都工芸繊維大⑥大阪産業大⑦奈良教育大

▼男子5部

姫独大 29-15 追大
姫独大 24-13 奈良大
姫独大 20-18 京府大
姫独大 24-18 兵教大
姫独大 27-13 神商大
姫独大 31-16 大工大
京府大 20-13 追大
京府大 18-11 奈良大
京府大 21-20 兵教大
神商大 12-0 京府大
京府大 26-19 大工大
神商大 27-19 奈良大
追大 19-18 神商大
神商大 22-22 兵教大
神商大 30-15 大工大
追大 28-13 兵教大
奈良大 20-14 追大
追大 20-15 大工大
奈良大 25-13 兵教大
大工大 17-14 奈良大
兵教大 20-19 大工大

〔順位〕①姫路独協大②京都府立大③神戸商船大④追手門学院大⑤兵庫教育大⑥奈良大⑦大阪工業大

▼男子6部

大薬大 15-13 大歯大
大薬大 24-15 京外大
大薬大 20-18 大外大
大薬大 19-17 姫工大
姫工大 18-17 京外大
姫工大 21-20 大外大
大歯大 20-18 姫工大
大歯大 20-14 京外大
大歯大 15-15 大外大
大外大 11-11 京外大

〔順位〕①大阪薬科大②姫路工業大③大阪歯科大④大阪外国語大⑤京都外国語大

▼女子1部

武庫川女大 30-14 天理大
武庫川女大 19-16 大体大
武庫川女大 30-14 大教大
武庫川女大 32-8 関外大
武庫川女大 35-5 京教大
武庫川女大 48-10 成蹊大
大体大 27-17 天理大
大体大 30-15 大教大
大体大 31-4 関外大
大体大 50-10 京教大
大体大 54-6 成蹊大
大教大 21-15 天理大
大教大 33-10 関外大
大教大 34-18 京教大
大教大 31-9 成蹊大
天理大 29-6 関外大
天理大 40-13 京教大
天理大 40-10 成蹊大
京教大 16-15 関外大
京教大 20-12 成蹊大
関外大 28-7 成蹊大

〔順位〕①武庫川女子大②大阪体育大③大阪教育大④天理大⑤京都教育大⑥関西外国語大⑦成蹊女子短大

▼女子2部

神大 16-12 関学大
神大 17-11 関大
神大 22-12 大薬大
神大 16-6 奈女大
神大 12-0 京女大
神大 12-9 仏大
仏大 14-10 関大
仏大 16-11 関学大
仏大 24-11 大薬大

仏大	16－8	奈女大
仏大	28－5	京女大
関大	16－14	関学大
関大	28－9	大薬大
関大	17－10	奈女大
関大	33－7	京女大
大薬大	20－15	関学大
大薬大	11－11	奈女大
大薬大	31－9	京女大
関学大	16－10	奈女大
関学大	12－0	京女大
奈女大	12－0	京女大

〔順位〕①神戸大②仏教大③関西大④大阪薬科大⑤関西学院大⑥奈良女子大⑦京都女子大

▼女子3部

〇Aブロック

立命大	11－10	和大
立命大	19－12	甲南大
立命大	23－12	奈教大
立命大	32－4	大外大
和大	17－8	甲南大
和大	18－9	奈教大
和大	15－7	大外大
甲南大	10－7	奈教大
甲南大	25－6	大外大
奈教大	18－7	大外大

〇Bブロック

滋大	10－4	兵教大
滋大	21－4	追大
滋大	14－3	京府大
兵教大	17－5	追大
兵教大	14－5	京府大
京府大	6－5	追大

〇順位決定戦

滋大	18－13	立命大
兵教大	13－10	和大
甲南大	25－4	京府大
奈教大	20－4	追大

〔順位〕①滋賀大②立命館大③兵庫教育大④和歌山大⑤甲南大⑥京都府立大⑦奈良教育大⑧追手門学院大⑨大阪外国語大

東海学生

▼男子1部

中部大	28－26	愛学大
名城大	30－17	愛教大
中京大	42－16	名古屋大
中部大	34－16	名古屋大
愛学大	32－23	愛教大
中京大	27－22	名城大
中京大	20－18	愛学大
中部大	43－14	愛教大
名城大	37－19	名古屋大
中部大	26－23	中京大
名城大	18－16	愛学大
名古屋大	27－21	愛教大
愛学大	22－18	名古屋大
中京大	38－9	愛教大
中部大	34－17	名城大

〔順位〕①中京大②名城大③愛知学院大⑤名古屋大⑥愛知教育大

▼男子2部

愛知大	28－11	滋賀大
南山大	24－23	名学大
名工大	31－19	滋賀大
名工大	32－26	静岡大
南山大	23－23	滋賀大
名学大	22－22	静岡大
愛知大	36－16	名工大
名学大	20－16	滋賀大
南山大	44－28	名工大
愛知大	36－19	静岡大
名学大	29－20	名工大
愛知大	31－11	名学大
南山大	23－22	静岡大
静岡大	29－19	滋賀大
愛知大	22－15	南山大

〔順位〕①愛知大②南山大③名古屋学院大④名古屋工業大⑤静岡大⑥滋賀大

▼男子3部

日福大	41－8	朝日大
三重大	32－22	朝日大
岐阜大	24－16	豊田工専
豊田工専	39－19	朝日大
日福大	29－15	三重大
三重大	32－29	豊田工専
名経大	29－16	朝日大
岐阜大	30－22	三重大
名経大	25－12	岐阜大
日福大	38－25	豊田工専
名経大	28－22	三重大
岐阜大	36－14	朝日大
名経大	27－23	日福大
名経大	36－16	豊田工専
日福大	28－20	岐阜大

〔順位〕①名古屋経済大②日本福祉大③岐阜大④三重大⑤豊田工専⑥朝日大

▼男子4部

豊橋技大	12－0	皇学館大
豊田工大	44－15	皇学館大
豊田工大	34－23	豊橋技大
常葉大	12－0	皇学館大
常葉大	37－20	豊橋技大
愛知医大	34－31	皇学館大
常葉大	28－17	愛知医大
豊田工大	40－15	愛知医大
豊橋技大	38－20	愛知医大
豊田工大	27－22	常葉大

〔順位〕①豊田工業大②常葉大③豊橋技術大④愛知医大⑤皇学館大

▼女子1部

中京女大	49－8	南山大
中京大	35－6	愛教大
中京女大	34－12	愛教大
中京大	36－3	南山大
中京大	25－21	中京女大
愛教大	22－8	南山大
中京大	31－7	愛教大
中京女大	44－3	南山大
中京大	41－5	南山大
中京女大	45－8	愛教大
愛教大	18－13	南山大
中京大	24－22	中京女大

〔順位〕①中京大②中京女子大③愛知教育大④南山大

▼女子2部

日福大	18－2	三重大
日福大	15－8	岐阜大
三重大	19－9	皇学館大
日福大	12－7	静岡大
岐阜大	16－15	皇学館大
三重大	18－7	静岡大
静岡大	16－7	皇学館大
日福大	20－13	皇学館大
静岡大	17－15	岐阜大
三重大	12－12	岐阜大

〔順位〕①日本福祉大②三重大③静岡大④岐阜大⑤皇学館大⑥愛知学院大（棄権）

各地の記録から…

東北

第26回仙台市民総合体育大会
（10月17～19日／仙台市体育館）

〈少年男子〉

▼1回戦
仙台向上 37－13 泉館山
泉松陵 19－10 仙台南B
仙台西B 32－18 東北電子
東北B 21－12 榴ヶ岡
仙台南A 12－11 仙台一A

▼2回戦
仙台向山 21－19 仙台西A
仙台東 50－8 東北A
仙台育英A 42－9 仙台一B
泉松陵 23－22 仙台二B
仙台西B 28－22 宮城工
仙台三 29－9 仙台二A
仙台育英B 21－12 東北B
仙台南B 16－12 仙台商

▼3回戦
仙台東 29－14 仙台向山
仙台育英A 28－11 泉松陵
仙台西B 21－19 仙台三
仙台育英B 20－13 仙台南A

▼準決勝
仙台育英A 27－14 仙台東
仙台育英B 27－17 仙台西B

▼3位決定戦
仙台東 33－17 仙台西B

▼決勝
仙台育英A 28（17－8、11－16）24 仙台育英B

〈少年女子〉

▼1回戦
宮一女 20－12 仙女商
朴沢A 31－12 宮三女B
仙台東 21－1 泉館山
朴沢B 16－15 宮三女A

▼2回戦
聖和A 26－14 宮一女
朴沢A 23－13 宮二女
聖和B 32－5 仙台東
朴沢B 28－5 仙女商

▼準決勝
聖和A 29－10 朴沢A
聖和B 22－8 朴沢B

▼3位決定戦
朴沢A 17－14 朴沢B

▼決勝
聖和B 17（12－8、5－6）14 聖和A

第39回青森県高校秋季大会
（11月18、19日／野辺地町立体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦
青森山田 19－6 五所川原
青森東 26－13 横浜分校
青森商 37－5 柏木農
青森南 17－7 今別
三本木 10－4 十和田工

▼2回戦
野辺地 20－14 青森山田
青森商 32－10 青森東
青森 18－9 青森南
三本木 20－15 鰺ヶ沢

▼準決勝
青森商 23－19 野辺地
青森 25－2 三本木

▼決勝
青森商 19（9－10、10－4）14 青森

〈女子〉

▼1回戦
野辺地工 12－5 青森東
青森西 20－3 三本木

▼準決勝
青森中央 35－4 野辺地工
青森西 15－10 野辺地

▼3位決定戦
野辺地 26－3 野辺地工

▼決勝
青森中央 20（10－6、10－2）8 青森西

関東

第39回茨城県総合選手権
（10月29日、11月3日／笠間高校）

〈男子〉

▼1回戦
玉藻ク 10－8 土浦湖北高
茎崎ク 25－14 竜ヶ崎南高
利根ク 24－16 土浦工高
常陽銀行 17－9 水戸一高
水海道一高 13－5 桐の葉ク
茨城コンドルス 23－19 太田一高
土浦三高ク 28－20 竜ヶ崎一高
筑波大 24－11 麻生高

▼2回戦
茨苑ク 18－8 玉藻ク
茎崎ク 19－15 笠間高
利根ク 21－10 日本原研
常陽銀行 17－12 古河三高ク
水海道一高 18－15 笠間ク
茨城コンドルズ 23－17 茨城大
土浦三高ク 27－10 結城一高
筑波大 12－0 藤代ク

▼3回戦
茨苑ク 25－13 茎崎ク
利根ク 25－17 常陽銀行
茨城コンドルズ 26－20 水海道一高
筑波大 12－0 土浦三高ク

▼準決勝
茨苑ク 25－18 利根ク
筑波大 27－23 茨城コンドルズ

▼決勝
茨苑ク 20－18 筑波大

〈女子〉

▼1回戦
麻生高 25－7 結城二高
茨城大 16－10 八郷高
高萩高 27－3 笠間高

▼2回戦
麻生高 16－15 御城ク
鉾田二高 17－13 水海道一高
竜ヶ崎二高OG 25－3 土浦湖北高
藤代紫水高 19－5 高萩高OG
茨城大 20－3 潮来高
桜芳ク 16－7 竜ヶ崎南高
太田二高 8－6 中央高
竜ヶ崎一高 14－7 高萩高

▼3回戦
麻生高 23－12 鉾田二高
竜ヶ崎二高OG 19－3 藤代紫水高
茨城大 19－11 桜芳ク
竜ヶ崎一高 14－6 太田二高

▼準決勝
麻生高 21－16 竜ヶ崎二高OG
茨城大 14－9 竜ヶ崎一高

▼決勝
茨城大 19－17 麻生高

千葉県中学校大会
（日程、場所不明）

〈男子〉

▼1回戦
流山南 14－7 柏南
逆井 14－9 福栄
野田一 11－6 草野
富岡 不戦勝 木間ヶ瀬
花園 11－4 葛飾
若松 19－11 河原塚

▼2回戦
妙典 38－11 流山南
野田一 12－11 逆井
富岡 16－9 花園
若松 11－10 東邦

▼準決勝
妙典 29－3 野田一
若松 14－11 富岡

▼決勝
妙典 33（17－3、16－3）6 若松

〈女子〉

▼1回戦
東国分 5－2 聖徳
市川二 8－5 若松

▼2回戦
花園 15－5 東国分
福栄 16－2 佐原二
昭和 13－6 逆井
葛飾 4－1 西志津
野田一 18－3 磯辺二
妙典 15－0 上志津
湖北台 8－5 こて台
二宮 16－7 市川二

▼3回戦
花園 13－12 福栄
昭和 20－1 葛飾
野田一 9－7 妙典
二宮 28－7 湖北台

▼準決勝
昭和 15－14 花園
二宮 19－3 野田一

▼決勝
二宮 14（8－6、6－2）8 昭和

第16回千葉県総合選手権

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼1回戦
あさひク 19－13 我孫子高B
東邦高 24－10 自衛隊下総
小金クA 24－9 京葉高
勝浦グレープスB 12－10 船橋東高
勝浦グレープスA 23－14 泉高A
小金クB 20－19 市原高B
日球会 27－12 専大松戸高

▼2回戦
柏南ク 23－10 木更津高
千葉教員 32－11 あさひク
勝浦バイレーツ 13－11 東京学館A
若松高 17－11 佐原高
東邦高 21－11 出光千葉
小金クA 23－20 コスモ石油
泉高B 15－14 小金高A
若潮ク 22－20 市松ク
武道大B 22－11 勝浦グレープスB
若潮ナッツ 24－15 勝浦グレープスA
東京学館B 23－7 清水高
拓大紅陵高 17－11 市原高A
東京理科大 28－19 小金クB
日球会 17－16 三井石油
我孫子高A 22－16 小金高B
若松ク 27－25 千葉大OB
武道大A 29－15 柏南ク

▼3回戦
千葉教員 31－19 勝浦バイレーツ
東邦高 29－10 若松高
泉高B 12－0 小金クA
武道大B 32－18 若潮ク
若潮ナッツ 23－15 東京学館B
東京理科大 25－13 拓大紅陵高
我孫子高 12－0 日球会
武道大A 29－20 若松ク

▼4回戦
千葉教員 27－22 東邦高
武道大B 33－14 泉高B
若潮ナッツ 26－15 東京理科大
武道大A 32－18 我孫子高A

▼準決勝
千葉教員 25－20 武道大B
武道大A 30－18 若潮ナッツ

▼決勝
武道大A 27（14－15、13－9）24 千葉教員

〈女子〉

▼1回戦
若松高 20－15 流山中央高
武道大 15－11 御宿家政高
佐原女高 16－9 専大松戸高
千葉大 14－8 佐原高

▼2回戦
千葉ク 26－10 若松高
千葉明徳短大 23－6 武道大
佐原女高 12－0 東邦高
なのはなク 19－2 千葉大

▼準決勝
千葉明徳短大 10－8 千葉ク
なのはなク 23－10 佐原女高

▼決勝
千葉明徳短大 29（15－9、14－6）15 なのはなク

埼玉県中学新人大会

（11月11、12日／大久保中学）

〈男子〉

▼1回戦
中野 18－17 戸塚
南浦和 17－13 豊春
蓮田 37－9 見沼
吉川南 23－9 川島
富士見西 32－7 狭山中央
上大久保 20－7 南陵
朝霞五 19－17 栄進
喜沢 25－11 本郷

▼2回戦
中野 17－15 南浦和
蓮田 16－14 吉川南
上大久保 14－14 富士見西
喜沢 22－11 朝霞五

▼準決勝
蓮田 15－12 中野
喜沢 12－11 上大久保

▼決勝
喜沢 16－7 蓮田

〈女子〉

▼1回戦
八潮三 17－10 三郷栄
春日部 17－8 八潮四
十二月 11－7 八潮
幸並 7－5 松山
中野 28－13 川口芝
戸塚 9－4 新座三
吉川中央 23－3 大久保

▼2回戦
八潮三 13－4 榛松
十二月 15－6 春日部
中野 21－4 幸並
吉川中央 26－4 戸塚

▼準決勝
八潮三 17－15 十二月
吉川中央 14－11 中野

▼決勝
吉川中央 22－15 八潮三

埼玉県高校新人大会

（11月17～26日／浦和学院高、草加市体育館、伊奈学園高）

〈男子〉

▼1回戦
春日部 17－13 上尾南
庄和 23－22 朝霞
越谷西 26－14 大宮北

伊奈学園 23－20 埼玉第一
上尾東 15－7 三郷工技
春日部共栄 17－10 所沢緑ヶ丘
桶川 20－13 幸手
大井 27－16 大宮

▼2回戦
浦和実 27－7 春日部
春日部東 19－14 吹上
城北埼玉 15－13 熊谷
庄和 17－17 川口東
3PTC1
県坂戸 24－13 越谷西
浦和南 30－16 羽生一
城西川越 18－11 秩父
川口北 27－14 伊奈学園
大宮南 27－12 上尾東
川口工 24－16 西武台
川口青陵 23－16 春日部工
農大三 20－12 春日部共栄
埼玉栄 39－6 桶川
筑波大坂戸 16－15 小松原
浦和西 17－11 越谷南
浦和学院 30－13 大井

▼3回戦
浦和実 32－6 春日部東
庄和 26－9 城北埼玉
浦和南 23－20 県坂戸
川口北 28－6 城西川越
大宮南 31－11 川口工
農大三 22－14 川口青陵
埼玉栄 26－8 筑波大坂戸
浦和学院 19－13 浦和西

▼準決勝リーグ1組
浦和実 15－13 川口北
浦和実 31－11 浦和南
浦和実 35－11 庄和
川口北 20－15 浦和南
川口北 32－8 庄和
浦和南 26－11 庄和
〔順位〕①浦和実②川口北③浦和南④庄和

▼準沢勝リーグ2組
浦和学院 15－13 大宮南
浦和学院 16－12 埼玉栄
浦和学院 23－6 農大三
大宮南 19－11 埼玉栄
大宮南 23－18 農大三
埼玉栄 24－18 農大三
〔順位〕①浦和学院②大宮南③埼玉栄④農大三

▼7・8位決定戦
農大三 19－12 庄和

▼5・6位決定戦
浦和南 19－17 埼玉栄

▼3・4位決定戦
大宮南 13－9 川口北

▼決勝
浦和学院 12（8－6、4－5）11 浦和実
※浦和学院は2年連続3度目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
春日部東 10－3 戸田
北本 21－8 狭山
八潮南 18－4 大宮開成
大宮南 21－7 農大三
浦和市立 21－6 草加南
庄和 25－6 鳩ヶ谷
越谷南 17－7 上尾南
埼玉栄 33－9 浦和西

▼2回戦
浦和実 38－0 春日部東
宮代 17－13 行田女
草加 20－12 浦和商
上尾東 32－4 北本
三郷北 32－6 八潮南
筑波大坂戸 39－3 深谷一
浦和学院 22－6 本庄女
川口北 22－5 大宮南
川口青陵 28－1 浦和市立
秋草学園 17－15 川口女
熊谷女 30－7 所沢北
浦和南 29－10 庄和
八潮 21－9 越谷南
小松原女 22－11 春日部女
羽生一 25－6 朝霞
伊奈学園 29－14 埼玉栄

▼3回戦
浦和実 29－4 宮代
上尾東 27－12 草加
三郷北 15－11 筑波大坂戸
川口北 19－11 浦和学院
川口青陵 28－14 秋草学園
浦和南 23－13 熊谷女
小松原女 16－13 八潮
伊奈学園 17－15 羽生一

▼準決勝リーグ1組
浦和実 25－10 川口北
浦和実 27－6 上尾東
浦和実 24－5 三郷北
川口北 12－10 上尾東
川口北 13－11 三郷北
上尾東 15－14 三郷北
〔順位〕①浦和実②川口北③上尾東④三郷北

▼準決勝リーグ2組
川口青陵 16－14 伊奈学園
川口青陵 28－20 小松原女
川口青陵 17－13 浦和南
伊奈学園 23－12 小松原女
伊奈学園 17－11 浦和南
小松原女 14－11 浦和南
〔順位〕①川口青陵②伊奈学園③小松原女④浦和南

▼7・8位決定戦
浦和南 17－11 三郷北

▼5・6位決定戦
小松原女 25－14 上尾東

▼3・4位決定戦
伊奈学園 13－11 川口北

▼決勝
浦和実 24（13－5、11－4）9 川口青陵
※浦和実は2年ぶり3度目の優勝

第12回群馬県中学新人大会

（11月19、23日／富岡中学ほか）

〈男子〉
▼1回戦
藤岡南 20－5 下仁田東
南八幡 19－10 下仁田西
富岡 30－4 富岡西
甘楽三 11－9 甘楽二
相生 22－10 藤岡北

▼2回戦
富岡南 20－11 藤岡南
南八幡 14－13 富岡
矢中 13－12 甘楽三
富岡東 30－7 相生

▼準決勝
富岡南 21－11 南八幡
富岡東 15－5 矢中

▼決勝
富岡南 23（7－8、9－8、2－2、5－3）21 富岡東

〈女子〉
▼1回戦
富岡東 16－1 富岡西
塚沢 15－5 相生
富岡 19－2 高南
富岡南 11－6 矢中

▼準決勝
富岡東 21－6 塚沢
富岡 13－7 富岡南

▼決勝
富岡東 15（7－4、8－7）11 富岡

東海

第43回三重県民体育大会

（10月28、29日）

〈成年男子〉
▼1回戦
三重郡 19－9 亀山市
尾鷲市 18－10 津市
四日市市 28－20 久居市

▼準決勝
鈴鹿市 25－10 三重郡
四日市市 21－17 尾鷲市

▼決勝
鈴鹿市 37（19－4、18－7）11 四日市市

〈成年女子〉
▼1回戦
三重郡 6－5 鈴鹿市

▼準決勝
四日市市 20－6 三重郡
津市 6－4 尾鷲市
▼決勝
四日市市 20（9－0、11－3）3 津市

〈少年男子〉
▼1回戦
三重郡 20－7 桑名市
▼2回戦
四日市市 14－13 三重郡
亀山市 17－6 尾鷲市
鈴鹿市 22－11 鳥羽市
津市 21－8 上野市
▼準決勝
四日市市 23－10 亀山市
津市 21－18 鈴鹿市
▼決勝
四日市市 24（11－10、13－3）13 津市

〈少年女子〉
▼1回戦
三重郡 18－5 亀山市
上野市 11－10 尾鷲市
▼準決勝
四日市市 20－9 三重郡
津市 20－11 上野市
▼決勝
四日市市 15（7－5、8－5）10 津市

北信越

長野県高校新人大会

（11月11、12日／戸倉町総合体育館ほか）

〈男子〉
▼1回戦
坂城 34－6 臼田
長野東 10－9 野沢南
上田 29－3 中野
諏訪清陵 24－11 北部
小諸 34－15 松本第一
野沢北 16－13 田川
屋代 43－3 上田千曲
▼2回戦
坂城 31－18 松本県ヶ丘
上田 24－8 長野東
小諸 24－10 諏訪清陵
屋代 34－17 野沢北
▼準決勝
坂城 16－15 上田
屋代 33－13 小諸
▼決勝
屋代 38（19－10、19－13）23 坂城

〈女子〉
▼1回戦
松本県ヶ丘 21－3 更級農
小諸商 12－0 松本蟻ヶ崎
▼2回戦
佐久 33－4 松本県ヶ丘
田川 14－5 臼田
塩沢 25－8 松川
屋代 22－11 小諸商
▼準決勝
佐久 24－6 田川
屋代 29－16 塩尻
▼決勝
佐久 19（8－7、11－5）12 屋代

近畿

和歌山県秋季選手権

（11月3、5日／那賀高校）

〈一般男子〉
▼1回戦
耐久高 15－14 近大和歌山高A
桐蔭高 22－17 笠田高
新宮商高 20－6 市和商高
御坊商工高 45－13 和歌山東高
▼2回戦
海南高 22－18 桐蔭ク
住友金属 29－13 和歌山ク
和歌山大 37－15 耐久高
貴志川高 29－17 桐蔭高
御坊ク 28－17 新宮商高
那賀ク 33－13 箕島高
県和商ク 24－16 紀北農芸高
市和商ク 18－14 御坊商工高
粉河高 30－11 海南高
那賀高 23－16 住友金属
▼3回戦
和歌山大 27－8 貴志川高
御坊ク 22－21 那賀ク
県和商ク 17－13 市和商ク
那賀高 29－17 粉河高
▼準決勝
和歌山大 23－18 御坊ク
那賀高 21－15 県和商ク
▼決勝
那賀高 23（12－6、11－6）12 和歌山大

〈一般女子〉
▼1回戦
御坊商工高B 25－4 桐蔭高
貴志川高 17－12 那賀ク
粉河高 27－12 海南高
▼2回戦
那賀高 15－6 御坊商工高B
県和商高B 21－6 笠田高
県和商高A 19－12 貴志川高
粉河高 16－13 御坊商工高A
▼準決勝
那賀高 22－7 県和商高B
県和商高A 17－12 粉河高
▼決勝
那賀高 13（8－6、5－2）8 県和商高A

〈中学男子〉
▼1回戦
岩出二中 16－6 金屋
貴志川中 24－14 有功中
湯浅中 22－8 打田中
▼2回戦
岩出中 26－3 大和歌山中
紀伊中 13－12 岩出二中
貴志川中 17－15 白馬中
那賀中 18－18 湯浅中（2 PTC 1）
▼準決勝
岩出中 24－9 紀伊中
貴志川中 20－11 那賀中
▼決勝
岩出中 20（12－8、8－10）18 貴志川中

〈中学女子〉
▼1回戦
岩出中 20－3 岩出二中B
粉河中 22－3 那賀中
挑山中 19－5 打田中

岩出二中A 12－6 貴志川中

▼準決勝

岩出中 11－6 粉河中

岩出二中A 17－12 挑山中

▼決勝

岩出中 10（6－4、4－3）7 岩出二中A

奈良県高校新人大会

（11月18～25日／生駒市総合体育館、生駒市民体育館）

〈男子〉

▼1回戦

奈良 14－10 広陵

添上 33－6 天理

正強 53－6 桜井商

▼2回戦

奈良 29－2 斑鳩

畝傍 16－10 郡山

檜原 27－9 一条

添上 41－2 奈良工

富雄 16－14 信貴丘

生駒 29－17 片桐

高田東 23－12 上牧

正強 29－13 東大寺

▼3回戦

奈良 13－12 畝傍

添上 17－5 檜原

生駒 15－13 富雄

正強 42－12 高田東

▼準決勝

添上 15－14 畝傍

正強 32－17 生駒

▼決勝

正強 18（10－8、8－9）17 添上

〈女子〉

▼1回戦

郡山 12－10 一条

檜原 25－8 片桐

富雄 13－10 生駒

短大付 11－9 白藤

▼準決勝

郡山 17－13 檜原

富雄 19－3 短大付

▼決勝

富雄 13（7－2、6－3）5 郡山

中国

岡山県高校新人大会

（11月3～11日／津山商高、倉敷南高）

〈男子〉

▼1回戦

高梁工 12－12 金川（3PTC2）

落合 20－8 邑久

理大附 14－10 吉備

光南 17－4 津山工

水島工 10－9 操山

総社南 20－3 西大寺

倉敷南 23－11 矢掛

岡山工 11－5 青陵

関西 14－10 一宮

古城池 14－13 玉野

倉敷工 17－3 芳泉

津山 16－6 大安寺

総社 12－8 倉敷商

天城 13－12 備前東

▼2回戦

児島 14－13 朝日

東岡工 22－4 高梁工

理大附 17－10 落合

光南 12－8 水島工

倉敷南 20－14 総社南

岡山工 12－6 関西

倉敷工 15－9 古城池

総社 9－8 津山

児島 17－15 天城

▼3回戦

東岡工 30－14 理大附

倉敷南 22－11 光南

岡山工 9－8 倉敷工

児島 11－10 総社

▼準決勝

東岡工 16－8 倉敷南

岡山工 11－10 児島

▼決勝

東岡工 17（10－4、7－4）8 岡山工

〈女子〉

▼1回戦

倉敷南 7－4 倉敷商

倉敷中央 11－10 矢掛

津山商 13－4 芳泉

一宮 7－3 大安寺

児島 12－5 青陵

落合 10－9 真備

▼2回戦

古城池 12－8 倉敷南

津山 10－10 備前東（2PTC1）

総社 19－7 倉敷中央

光南 18－5 津山商

総社南 13－5 一宮

玉野 18－7 児島

操山 9－6 天城

西大寺 25－5 落合

▼3回戦

古城池 16－13 津山

光南 14－10 総社

玉野 21－12 総社南

西大寺 18－2 操山

▼準決勝

光南 19－9 古城池

西大寺 25－5 玉野

▼決勝

西大寺 16（8－8、8－6）8 光南

山口県体育大会中学の部

（10月1日、2日／山口中央高校）〈男子〉

▼1回戦

熊毛 25－7 萩第一

東部 15－9 鴻南

天尾 21－14 高千帆

平田 19－9 大富

▼2回戦

深浦 31－7 熊毛

美川 27－9 小野田

下松 16－12 柱野

住吉 31－1 東部

末武 29－15 天尾

岐陽 39－10 文洋

周陽 20－8 竜王

日新 31－9 平田

▼3回戦

深浦 24－5 美川

下松 14－13 住吉

末武 25－16 岐陽

日新 29－12 周陽
▼準決勝
深浦 23－15 下松
日新 26－16 末武
▼決勝
深浦 17（10－9、7－7）16 日新

〈女子〉
▼1回戦
天尾 15－5 太華
熊毛 7－5 岐陽
▼2回戦
玖珂 21－4 天尾
下松 14－3 周陽
住吉 12－8 末武
平田 15－10 熊毛
▼準決勝
玖珂 15－7 下松
平田 11－9 住吉
▼決勝
玖珂 25（15－6、10－7）13 平田

山口県体育大会一般の部

（11月11、12日／県立体育館）

〈男子〉
▼1回戦
徳山ク 棄権 三井石油
山口県教員団B 27－21 周南ク
▼2回戦
山口県教員団A 29－20 徳山ク
徳山曹達 27－9 興亜石油
下松ク 30－20 徳山大
下関ク 30－25 山口県教員団B
▼準決勝
山口県教員団A 26－15 徳山曹達
下関ク 32－30 下松ク
▼決勝
山口県教員団A 33（21－7、12－12）19 下関ク

〈女子〉
▼リーグ戦
徳山ク 30－9 周南ク
山口ク 26－3 周南ク
徳山ク 20－17 山口ク
〔順位〕①徳山クラブ②山口クラブ③周南クラブ

山口県体育大会高校の部

（11月5日／下松工高、徳山商高体育館）

〈男子〉
▼1回戦
岩国 15－12 岩陽
高水 8－6 徳山商
下関中央工 14－13 岩国工
下松工 32－9 山口
▼準決勝
岩国 17－10 高水
下松工 29－3 下関中央工
▼決勝
下松工 18（12－8、6－4）12 岩国

〈女子〉
▼1回戦
華陵 26－5 西京
岩国商 22－9 徳山
徳山商 20－12 高水
熊毛北 22－14 岩国
▼準決勝
華陵 27－10 岩国商
徳山商 16－11 熊毛北
▼決勝
華陵 23（12－3、11－7）10 徳山商

山口県高校選手権

（10月8、9日／下関中央工高体育館ほか）

▼1回戦
下関西 23－6 華陵
岩国 38－16 田部
宇部工 21－11 防府商
徳山 29－5 野田学園
下松 12－0 防府西
下関工 29－17 南陽工
▼2回戦
岩陽 34－19 下関西
岩国工 15－6 徳山工
岩国 23－12 小野田工
下関中央工 15－13 宇部工
高水 18－12 徳山
徳山商 18－16 下松
山口 18－16 下関第一
下松工 33－4 下関工
▼3回戦
岩陽 22－7 岩国工
下関中央工 20－16 岩国
高水 16－6 徳山商
下松工 34－8 山口
▼準決勝
岩陽 19－9 下関中央工
下松工 17－7 高水
▼決勝
岩陽 15（7－5、8－7）12 下松工

〈女子〉
▼1回戦
熊毛北 49－2 山口中央
岩国 14－11 長府
徳山 22－10 響
岩国商 27－2 防府西
徳山商 43－3 田部
西京 21－10 岩陽
高水 48－6 徳山工
華陵 43－4 防府商
▼2回戦
熊毛北 27－12 岩国
岩国商 30－11 徳山
徳山商 22－16 西京
華陵 26－12 高水
▼準決勝
熊毛北 28－8 岩国商
華陵 21－8 徳山商
▼決勝
華陵 15（10－6、5－8）14 熊毛北

"小さな掛金、大きな補償" でおなじみの

900万人の保険

スポーツ安全保険

が4月からかわります。一層有利になりました。

主な改定

- ★ 加入区分、掛金が改められました。
- ★ 死亡・後遺障害が最高1,400万円に増額され、入院通院日額も引き上げられました。
- ★ 補償の対象になる治療日数が「4日以上」に短縮されました。
- ★ 賠償責任保険の補償限度額が1億円に増額されました。
- ★ 心蔵マヒなどの突然死等に対し見舞金が支払われることになりました。

5人以上のグループでこの保険に加入できます。

区分			掛金（1人年額）	傷害保険（保険金額） 死亡・後遺障害	入院	通院	賠償責任保険（補償限度額）	共済見舞金
1種	A	■スポーツ少年団、子ども会など中学生以下のグループ ■成人の文化活動、社会奉仕活動のグループ	360円	最高 1,400万円	1日につき 4,000円	1日につき 1,300円		
1種	B	老人クラブ団体 ■団体員がおゝむね60歳以上の人により構成された団体 (例)ゲートボールクラブ、ハイキングクラブなど	500円	400万円	1,800円	800円	対人賠償 1億円（自己負担1,000円）	
1種	C	■ママさんバレーなどの地域スポーツのグループ ■高校の運動部、大学、会社などのスポーツ同好会 ■一定の資格のある指導者のグループ	1,100円	1,400万円	4,000円	1,300円	対物賠償 500万円（自己負担1,000円）	突然死および日射病熱射病による死亡 50万円
2種	A	■大学の運動部、実業団のチーム	1,450円					
2種	B	■難度の高いスポーツをする大学の運動部、実業団のチーム	5,750円					
3種		■とくに難度の高いスポーツをするグループ	9,900円	400万円	1,800円	800円		

対象となる事故　■グループ活動中の事故　■往復途上の事故

保険期間　　平成2年4月1日より翌年3月31日まで（申込受付は3月から）

加入申し込み、資料の請求、お問合わせ

スポーツ安全協会各都道府県支部（主として教育委員会保健体育課および体育協会）、もよりの東京海上火災保険㈱の営業店にご照会ください。

（財）スポーツ安全協会

東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育会館 TEL(03)481-2431（代表）

ソウルで活躍した、
もうひとつのジャパン。
これが頂点。ソウル・オリンピックの日本選手団に
採用されたスカイハンド®ジャパンα-S
すべてのハンドボーラーが注目していた、ソウルでの日本選手団の活躍。
その鋭い切れ味も、その俊敏な走りも、このシューズから生まれた。スカイハンド®ジャパンα-S。
ハンドボールシューズでは初めて内蔵したαゲルが、ジャンプやシュートなど激しい動きによる足への負担を軽減する。
吸いつくようにグリップするスパイラルソールによって、インドアコートで威力を発揮。
これは、胸をはって履いてほしいシューズだ。
JAPAN
TIGER
SKYHAND α
α GEL
品番 THH 711 品名 スカイハンド® ジャパンα-S
メーカー希望小売価格 ¥14,700 (消費税抜き)
カラー ●ホワイト×Wレッド・マリンブルー ●ホワイト×Wマリンブルー・レッド
サイズ 22 5~29.0cm

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二九五号
昭和四十年六月[illegible]日 平成二年二月二十六日 印刷
第三種郵便物認可 平成二年三月一日 発行
東京都渋谷[illegible]南一－一－一 編集兼
電話 代表 (481) 二三六一 発行人
振替 東京 六－五八二四八番
安藤純光
定価三百五十円
(年間購読料 三千三百円)